

畜産クラスター 情報交換会報告書

平成30年度畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業(全国推進事業)

平成31年3月

公益社団法人中央畜産会

はしがき

我が国の畜産は、乳用牛の飼養頭数が16年ぶりに増加に転じるとともに、肉用牛繁殖雌牛の飼養頭数が3年連続で増加するなど、生産基盤に回復の兆しが見えています。しかし、生産資材である肉用子牛や初任牛価格は高騰しており、今後の肉用牛肥育経営・酪農経営等は厳しい状況が予想されます。一方、畜産物価格は後継者不足等による生産減により、総じて強含みで推移していますが、担い手の高齢化、後継者不足により経営戸数の減少に歯止めがかからない状況であり、生産基盤の強化が喫緊の課題となっています。

土地利用条件に大きく制約を受ける等、限られた資源を活用せざるを得ない我が国の畜産においては、個々の畜産経営体の努力だけでは解決できない課題が多くあります。そこで、農林水産省では「畜産経営を核に、行政、畜産関連組織・産業、地域住民等が結集し、地域ぐるみで畜産の収益力向上を図る体制（畜産クラスター）」の構築により、地域の畜産生産基盤の強化を推進するための諸施策を平成26年度から推進しています。本施策では、個人では対応の難しい課題であっても、関連する人々・産業が連携し合うことで個々の資源・ノウハウを結集させ地域が一丸となることで、解決策への道が開けるという考え方（畜産クラスター計画）の基本方針が掲げられています。

本会では畜産クラスターの全国的な普及推進のための事業の一環として、平成27年度から畜産クラスター情報交換会を開催しています。今年度は、畜産クラスター事業を活用して施設整備及び機械導入等を行った畜産クラスター協議会関係者にご参集いただき、これまでの畜産クラスター計画の活動内容をご報告いただくとともに、各協議会が抱えている取組上の課題や今後の対応方法・解決策等について情報交換を行うことにより、今後の各協議会活動の参考としていただきました。

本報告書は、平成30年度畜産クラスター情報交換会の当日の内容をとりまとめたものです。各地域の畜産クラスター協議会の抱える課題解決のヒントや今後の取組活動の参考の一助となるよう、ご活用いただければ幸いに存じます。

平成31年3月
公益社団法人中央畜産会

目 次

1	畜産クラスター情報交換会の趣旨及び概要	1
2	畜産クラスター情報交換会の主な内容	3
3	畜産クラスター情報交換会に参加した各協議会のプレゼン資料	
①	登米市畜産クラスター協議会（宮城県）	7
②	蔵王36畜産クラスター協議会（宮城県）	12
③	高萩地区クラスター協議会（茨城県）	15
④	氷見市耕畜連携農業推進協議会（富山県）	18
⑤	四日市市畜産クラスター協議会（三重県）	21
⑥	岡山市畜産クラスター協議会（岡山県）	24
⑦	岡山県酪農振興クラスター協議会（岡山県）	28
⑧	ながさき県北畜産クラスター協議会（長崎県）	31
⑨	杵築市畜産クラスター協議会（大分県）	34
⑩	大分県農協肥育委託事業プロジェクト協議会（大分県）	37
⑪	琉球採卵鶏生産振興協議会（沖縄県）	40

平成 30 年度畜産・酪農収益力整備等特別対策事業（全国推進事業）

畜産クラスター情報交換会

I 趣 旨

全国の畜産クラスターの取組みを行っている先進事例の関係者を参集し、これまでの取組みの課題やその解決策及び今後の取組み等をテーマとした情報交換会を開催する。併せて、関係資料をとりまとめの上、広くその情報を発信し、もって各協議会の円滑な運営に資する。

II 概 要

開催期日：平成 31 年 2 月 18 日(月)13 : 00

～2 月 19 日 (火) 12 : 00

開催場所：TKP 御茶ノ水カンファレンスセンター ホール 2A
(東京都千代田区神田駿河台 4-3)

13:00～ 開場

13:30～13:40 開会

第 1 部 分科会 2 月 18 日(月) 13:40～17:30

13:40～15:40 全体での情報交換（会議資料に基づく各協議会のプレゼン）

- ・畜産クラスター協議会の目標について
- ・目標達成に向け、最も重点的に取組んでいる内容について
- ・目標達成度（実績・成果）を把握するための仕組み・体制について
- ・現在の目標達成度（成果）及び目標達成に向けて解決すべき課題について

15:40～16:00 休憩 - レイアウト替え -

16:00～17:30 各分科会での意見交換

- ・現在の目標達成度（成果）及び目標達成に向けて解決すべき課題について

分科会のグループ割

- A 飼養規模の拡大、飼養管理の改善（5 協議会）
- B 新規就農、担い手育成、労働負担の軽減（4 協議会）
- C 自給飼料利用の拡大（5 協議会）

第2部 全体討議 2月19日（火） 9:00～12:00

9:00～11:50 全体討議による情報交換

- ・各分科会の意見交換内容の報告
- ・全体意見交換

12:00 閉会



【情報交換会の様子】

平成 30 年度畜産クラスター情報交換会の主な内容

本情報交換会は 47 都道府県に募集をかけ、9 県 11 協議会 14 名の畜産クラスター協議会事務局等からの出席があった。

第 1 部は、全体での情報交換を行った。事前レポート①と②及び畜産クラスター協議会の概念図（ポンチ絵）の資料に基づき、各畜産クラスター協議会の目標や取組内容、取組内容に関する問題点や解決策、目標達成度（実績・成果）を把握するための仕組み、現在の目標達成度（成果）及び目標達成に向けて解決すべき課題等を報告し、情報共有を図った。

その後、分科会形式で 3 グループに分けて情報交換を実施した。A グループは飼養規模の拡大、飼養管理の改善を主な取組内容としている協議会等から 5 名、B グループは新規就農、担い手育成、労働負担の軽減を主な取組内容としている協議会等から 4 名、C グループは自給飼料利用の拡大を主な取組内容としている協議会等から 5 名であった。

第 2 部は、各グループの代表者に依頼し、グループでの議論の内容を簡潔にまとめて報告いただき、その後、効率的に意見交換を実施するため、各グループの報告を踏まえて、事務局が進行する形で全体討議を実施した。

I A グループ：飼養規模の拡大、飼養管理の改善

主な報告・討議内容は、以下のとおり。

- ・飼養規模を拡大するには、当然 C グループの自給飼料利用の拡大、B グループの労働力の確保が、密接に関係する。
- ・自給飼料利用の拡大については、WCS やエサ米に取り組み、米の転作調整補助金を十分もらうことにより推進を図る。エコフィードについては、牛の肥育農家、養豚農家しか使えない。堆肥交換によって、飼料作物の拡大を図っている事例もある。堆肥については、耕種農家が望むようなものを作る必要が有る。
- ・労働力の確保、新規就農者の確保については、外部から導入というのは、なかなか難しく、やはり父親の後を継ぐという形が主力ではないか。新規就農者に対しては、地域全体でフォローアップすることが有効ではないか。新規就農者の受け入れ窓口がはっきりせず、たらい回しにされる状況は避けなければならない。
- ・飼養規模を拡大に資するコントラクター、TMR については、我われの協議会の中では、うまくいっている事例が無い。共同生産で無く、自分のために自分のエサを作っ

ている状況。

- ・CS（キャトルセンター）は、事例は少ないものの、省力化に役立ち、働き方改革に寄与している。離島や中間産地にある場合は、使い勝手が悪く、稼働率が低い。
- ・規模拡大のための省力化は、積極的にクラスター事業に取り組み、施設整備と併せて省力化の機械（発情発見器など）を導入していかないといけない。酪酪事業も同様。
- ・それぞれの農家の経営状態把握については、まだそこまでは出来ていない。他の協議会や行政・農協で、うまく対応している事例があれば、紹介して欲しい。事業が終わった後のアフターフォローとして、非常に重要だと考えている。県畜産協会では、規模拡大が終わった時点で、経営診断を受診するようアプローチしている。

II Bグループ：新規就農、担い手育成、労働負担の軽減

主な報告・討議内容は、以下のとおり。

- ・このテーマは、大変難しい問題。経営規模とともに、経営意欲も2極化が進んでいる。
- ・担い手については、農場スタッフとして受入れている。遊休牛舎を活用した新規就農した事例の報告があった。
- ・我々は畜産を担当しており、直接的には担い手育成とか対策に携わっていない。県農業振興課、県農業公社、農業会議、担い手育成協議会とかが新規就農者の開拓をやっている。畜産クラスター事業に採択されることにより、後継者が畜産をやってみようという動機づけに繋がっている面もあるのではないかな。地味で難しい分野。
- ・畜産だけの人材育成は、県行政としては難しい。担い手の相談は多いが、事務局の負担が大きい。問い合わせが多いのに、活用が出来ていない状態。
- ・協議会には、多くの団体が構成員になっているため、意見の食い違いがある。
- ・畜産クラスター事業の採択には、担い手という意味で後継者の存在が大きな意味を持つが、後継者の育成自体が難しい状況。
- ・畜産クラスター協議会についても、事務局がしっかりしている所、目的意識が高いところは、畜産クラスター事業に乗って、施設整備・機械導入をしつかりやっている。担当者が代わると協議会が動かない、会検に対応できないといった事例もある。目標と進捗をしつかり管理して行かなくてはならない。
- ・畜産クラスター事業については、普通の補助金と思っている農家が多い。農家ももっと主体となって行動計画を立てないといけない。45歳以上の酪農家・畜産農家には勧めづらい事業、採択されづらい事業だと感じている。中小畜産農家を支える畜産クラスター事業があっても良いのではないかな。
- ・儲けるような経営をされている農家には後継者がいるし、担い手の育成もしつかりできている。担い手には、専従者給与をしつかり払う必要がある。

Ⅲ Cグループ：自給飼料利用の拡大

主な報告・討議内容は、以下のとおり。

- ・自給飼料利用の拡大に向けた対策を中心に話し合った。
- ・生産コストの中で半分以上が飼料費。今後、飼料費の削減の取組みが不可欠になる。しかし、畜産物価格、枝肉単価などが、そこそこ高い水準で推移しているのので、飼料設計を変えるということに対して、畜産農家は抵抗を持っているのではないかと。
- ・輸入飼料については、価格が高騰している、運賃がかかるなど、値段の上げ下げが時期・年によってあるため、価格が安定しないということで、自給飼料利用の拡大に直結している。
- ・WCSについては、堆肥と稲わら交換という形で、地域の耕種農家と連携しながら自給飼料生産に取り組んでいる地域が多いが、品質にばらつきがあったり、販売ということで耕種農家が作り畜産農家のところまで行っていない事例もある。
- ・耕種農家サイドは、減反減反で意欲を失って、作ることを断念したという面もある一方、増産意欲・元気のある地域もある。コントラクター、集落営農の強い地域が部分的に残っているのが現状。そういったところに、どんどん委託に出して、畜産農家とのマッチング取組みを進める必要がある。
- ・WCSについては、面積的に飽和状態とも考えられるが、飼料用米とか牧草については、まだまだ増やす見込みがあるのではないかと。Aグループの話にもあったが、国の交付金を貰いたいのはやまやまだが、中山間地域とか地理的な条件で反収が足りていない地域では、断念するしかない。そういった地域でも交付金がもらえるような新たな品種とか、エサづくりの新しい取組みが必要。交付金ありきで作っているのが、耕種サイドの現状。耕種サイドの機械も古くなり、更新が必要になっている。
- ・作付面積の拡大・維持が必要となっているが、どの地域も労働力が足りないのので、どう確保していくかが課題となっている。
- ・行政・農協などの関係機関が集結して、地域の将来ビジョンを作成し、耕種農家も畜産農家も一緒に儲かる仕組み作りが重要になる。これがたぶん畜産クラスター協議会の役割だと思っている。

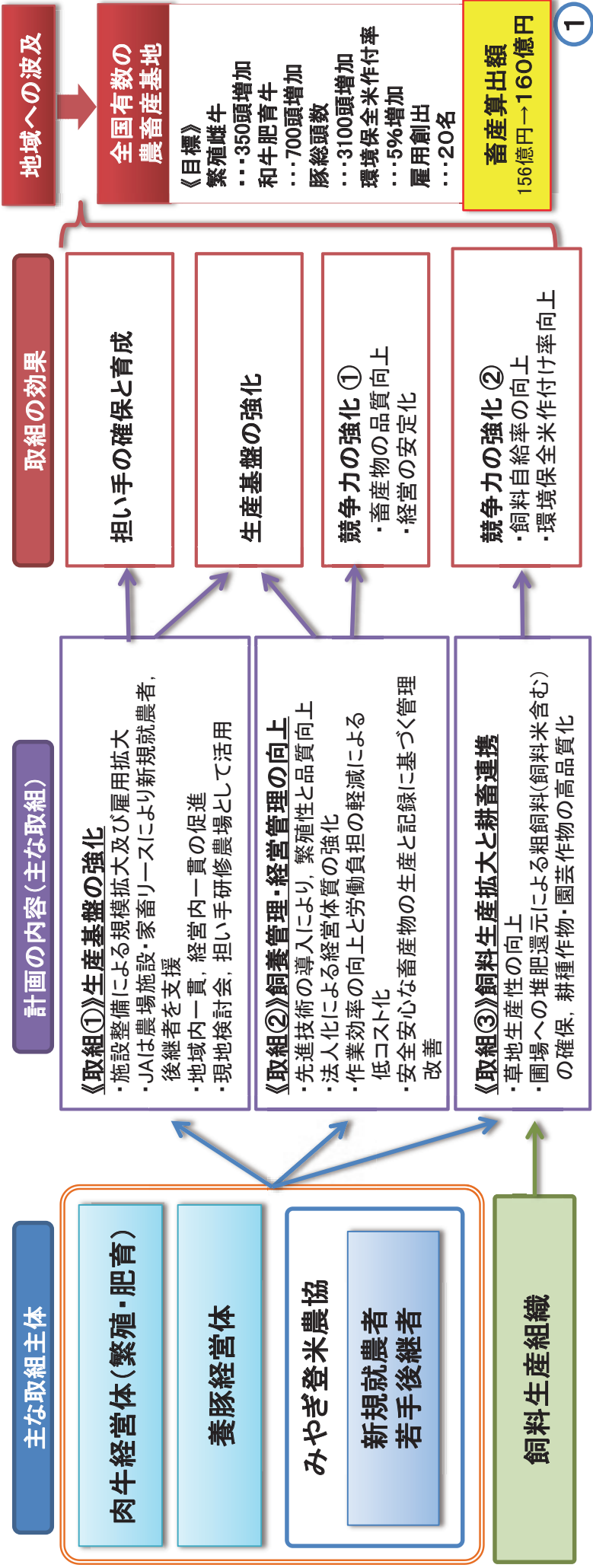
登米市畜産クラスター協議会

規模拡大による生産基盤強化と地域ぐるみの競争力強化で経営の安定化を実現

《地域の課題と必要な対応》

- 登米市では高齢化・後継者不足により、家畜の飼養戸数、飼養頭数が減少傾向にあるが、畜産業を地域の重要な基幹産業と位置づけ、全国有数の農畜産基地としてさらなる地位を確立するために、当協議会は下記の取り組みを実施
- ① 施設整備や雇用拡大による生産基盤の強化やJAの施設・家畜リースによる新規就農と青年後継者の規模拡大支援を行う
 - ② 飼養管理に先進技術を導入し、繁殖性と品質の向上を図ることで生産性と市場評価性を高めるとともに、一貫経営や法人化等の経営効率化により所得向上を図る
 - ③ 高性能機械導入により飼料用稲など自給飼料の生産性向上、低コスト化を図るとともに、耕畜連携による環境保全型農業を推進し、付加価値を高めた農畜産物の販売を促進し地域経済の向上を図る

生産基盤の拡大を柱に、長期持続的な畜産に向けた一体的な取り組み



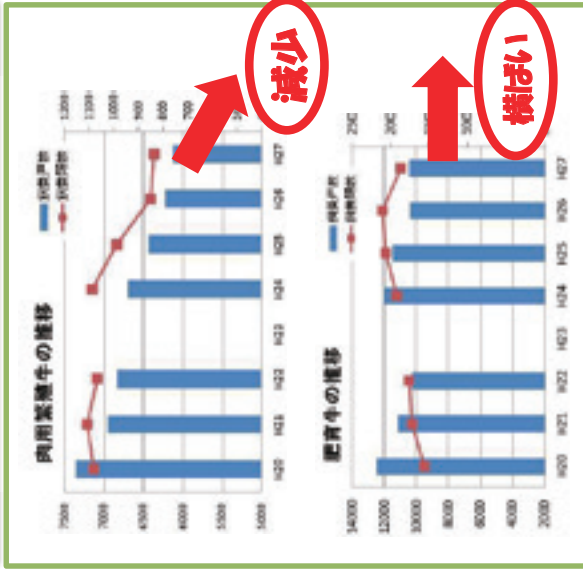
【JA・肉牛経営体】 テーマ

飼養規模拡大による生産基盤の強化と継続的な担い手の確保 (登米市畜産クラスター協議会)

・施設整備事業を活用して肉用牛肥育・繁殖経営の規模拡大に伴う農場の雇用の後継者等を活用すること
 で、担い手の育成を行うとともに、新たな畜産経営体の誕生を促す
 ・JAによる施設・家畜リースにより新規就農者と後継者の支援を図るとともに、後継者の研修の
 場として活用する

現状と課題

高齢化・後継者不足による
肉用牛生産基盤の脆弱化



課題

飼養頭数の維持が困難

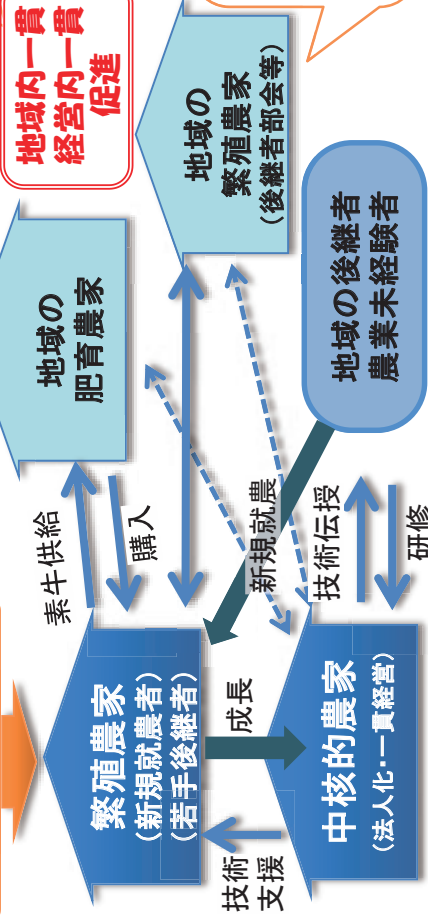
持続的な肉用牛生産のためには、安定的な肥育素牛の供給と確保が必要。高齢化の進行、後継者不足により繁殖牛の頭数が21年に比べ約12%減少。肥育頭数も後継者不足により伸び悩んでいる。

施設整備事業の活用

規模拡大・一貫経営促進による生産基盤拡大

農業生産額の向上効果
 子牛生産額 1.1億円増加
 肥育牛生産額 4.2億円増加

みやぎ登米協
 事業を活用して
 牛舎等の整備



地域内一貫
 経営内一貫
 促進

- ・地域内一貫，経営内一貫の肉用牛生産により，安定的な肥育素牛の供給と確保
- ・中核的農家での技術，経営研修により，既存農家の法人化，一貫経営化が加速

- ・新規就農者等の経営状況をモデルに，地域での増頭や就農が加速
- ・中核的農家での研修により，農業未経験者の登米市への就農が促進

今後の展望

地域の連携，経営力強化，継続的な担い手確保による飼養頭数の拡大・長期維持

展望

地域全体での生産基盤強化
 事業実施者がモデルケースとなり，地域の生産者の規模拡大や経営安定化に作用する

展望

継続的な担い手確保
 中核農家での研修や新規就農の経営支援により，継続的に担い手を確保

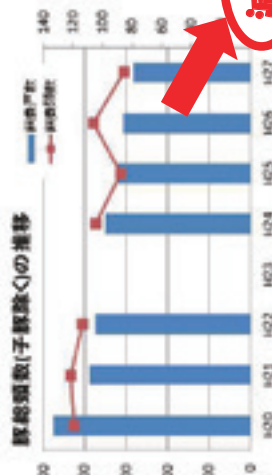
【養豚経営体】 テーマ 飼養規模拡大による生産基盤強化と差別化・耕畜連携による競争力強化 (登米市畜産クラスター協議会)

- ・施設整備事業を活用して養豚一貫経営の規模拡大。規模拡大に伴う農場の雇用の地域の後継者等を活用し、担い手の育成を行うとともに、生産される堆肥を地域耕種農家、園芸農家に還元し、耕畜連携を図る
- ・農場HACCPの導入等により衛生管理を向上させ、安全安心な畜産物の供給を行い、地域畜産物の競争力を強化

現状と課題

高齢化・後継者不足、競争激化等による廃業で生産基盤脆弱化

・高齢化、後継者不足等による生産戸数の減少



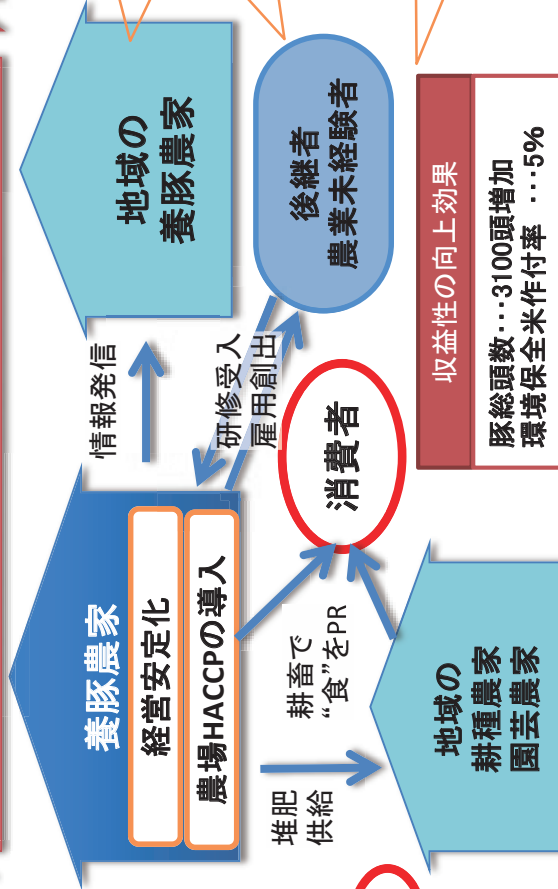
・TPP協定交渉により関税の段階的な関税削減
→ 輸入豚肉との競争激化

課題

- 飼養頭数の維持が困難
- ・高齢化や後継者不足により養豚経営者が減少し、飼養頭数も減少
- ・養豚生産に関する競争が激化し、中小養豚農家の廃業が加速
→ 生産農家はH20から約40%減少

施設整備事業の活用

規模拡大による経営力強化と競争力強化により飼養頭数の増加



今後の展望

長期的な経営安定と地域連携

・地域養豚農家の経営モデルとして、規模拡大が波及

・規模拡大に伴う雇用拡大により農業従事者が増加
→ 地域の担い手として独立

・耕畜連携、地域連携による消費者へのPR拡大

展望

地域全体での生産基盤強化
事業実施者がモデルケースとなり、地域の生産者の規模拡大や経営安定化に作用
安全性に加え、耕畜連携による環境保全型農畜産物として消費者へのPRを強化
後継者、農業未経験者の積極雇用により、農業従事者、担い手が増加

効果

規模拡大による経営安定化
規模拡大による収益性向上により、経営を安定化させる。雇用労働力を活用し担い手育成と経営強化。

衛生管理改善と耕畜連携で競争力強化
農場HACCPの導入などによる衛生管理水準の向上。耕種農家、園芸農家に堆肥を供給すると共に、タイアップして消費者に環境保全型農業をPR

収益性の向上効果
豚総頭数…3100頭増加
環境保全米作付率…5%

協議会名：登米市畜産クラスター協議会

平成30年度畜産クラスター情報交換会に係る事前レポート①

畜産クラスター情報交換会で使用する資料としますので、事前にご記入のうえ、平成31年2月8日（金）までにメールもしくはFAXにてご提出ください。記入方法については、作文形式でも、箇条書き形式でも構いませんが、当日の資料として印刷配布しますので、なるべく具体的に列挙してください。

=====以下、事前課題レポート=====

- 1 以下の選択肢より協議会として取り組んでいる内容すべてに○印をつけ、最も重点的に取り組んでいる内容について具体的に書いてください。

《選択肢》

①新規就農の確保	②担い手の育成	③労働負担の軽減	④飼養規模の拡大、飼
養管理の改善	⑤自給飼料利用の拡大	⑥畜産環境問題への対応	

《最も重点的に取り組んでいる内容》 番号： ④

- 2 あなたが所属している畜産クラスター協議会の目標について書いてください。

本市の農業生産額の約5割を占めるほど、畜産業が盛んであり、肉用牛の飼養頭数では本州一を誇っている。しかし、平成21年度に比べ平成27年度では和牛繁殖・和牛肥育・養豚農家の戸数は大幅に減少しており、飼養頭数についても繁殖牛で12%、肥育牛で6.8%、養豚で30%減少している。これに歯止めをかけ、全国有数の産地を維持し、畜産経営の安定化を図るために、肉用牛及び養豚の飼養頭数の拡大・飼養管理の改善を重要テーマとしている。

- 3 目標達成に向け、最も重点的に取り組んでいる内容を書いてください。

飼養者の高齢化に伴う離農が目立つことから、新規就農者の確保及び担い手の育成を重点的に取り組んでいる。具体的には、地域農協が畜舎を取得し新規就農者へ貸し付ける事業を行った。また、市でも畜舎整備に対する補助金を新規就農者へ優遇して、新規参入を促している。このほかに、関係機関で新規就農者対策チームを結成し、問題点の洗い出しや指導助言を行っている。

- 4 目標達成度（実態・成果）を把握するための仕組み・体制を書いてください。

新規就農者対策チームでは、県（家畜保健衛生所、農業改良普及センター）、地域農協及び市で構成されており、定期的な巡回や会議を開催していることに加え、協議会構成員には農業共済組合、農業振興公社や生産者団体の代表など、幅広い情報共有を行い、実態・成果の把握に努めている。

- 5 現在の目標達成度（成果）及び目標達成に向けて解決すべき課題を書いてください。

新規就農希望者や担い手の掘り起こしが必要。特に農業高校や農業大学校卒から研修を含め働ける場所の提供が出来ていない。また、一方で、大規模化が進んでいるが、1戸あたりの多頭化により、事故率が増加している。そのほか、飼料作物の農地集積が進まず、自給飼料の増産が出来ていない。生産調整が廃止されるなど、今後の農業政策についても不透明で、飼料生産農地の安定的な確保が難しくなっている。

平成30年度畜産クラスター情報交換会に係る事前レポート②

畜産クラスター情報交換会で使用する資料としますので、下記設問を【記入例】を参考にご記入の上、平成31年2月8日（金）までに、メールもしくはFAXにてご提出ください。当日の資料として印刷配布し情報共有します。記入方法については、「飼養頭数」「飼料用米栽培面積」等、重点的に取組んでいる内容を3つ選び、具体的に記載してください。

取組内容 (目標項目)	起点となる値		現状値	目標値	自己評価	要因分析・課題
	H26年度(3 のみH25年 度)	H30年3月	H32年度			
①飼養頭数の増大 i. 繁殖雌牛 ii. 肥育牛 iii. 豚	i. 6,400頭 ii. 11,000頭 iii. 53,300頭	i. 6,600頭 ii. 11,600頭 iii. 55,600頭	i. 6,750頭 ii. 11,700頭 iii. 56,400頭		取組は順調に進んでおり、目標達成が可能。	<ul style="list-style-type: none"> 全国的な子牛不足対策として行われた国、県、市及び関係団体の各種繁殖雌牛導入支援事業が効果を発揮し始め、飼養頭数が増加した。 特に、肉用牛経営安定対策補完事業の簡易牛舎整備に全農みやぎで取り組んだことやクラスター事業でのハード整備が順調に進んだ。 また、肥育牛及び豚での枝肉価格が堅調であり、大規模農家で増頭意欲が高まった。 法人化した大規模農家で新規雇用を拡大した。
②畜産に関する雇用 創出	—	9名	20名		取組は順調に進んでおり、目標達成が可能。	
③飼料作物の作付け 延べ面積の増加	1,599ha	1,733.1ha	1,820ha		取組は順調に進んでおり、目標達成が可能。	<ul style="list-style-type: none"> 農業政策の追い風もあり、増頭に併せ、稲WCSを中心に飼料作物の作付面積が順調に増加した。

協議会名：蔵王36畜産クラスター協議会

平成30年度畜産クラスター情報交換会に係る事前レポート①

畜産クラスター情報交換会で使用する資料としますので、事前にご記入のうえ、平成31年2月8日（金）までにメールもしくはFAXにてご提出ください。記入方法については、作文形式でも、箇条書き形式でも構いませんが、当日の資料として印刷配布しますので、なるべく具体的に列挙してください。

=====以下、事前課題レポート=====

- 1 以下の選択肢より協議会として取り組んでいる内容すべてに○印をつけ、最も重点的に取り組んでいる内容について具体的に書いてください。

《選択肢》

- ①新規就農の確保 ②担い手の育成 ③労働負担の軽減 ④飼養規模の拡大、飼養管理の改善 ⑤自給飼料利用の拡大 ⑥畜産環境問題への対応

《最も重点的に取り組んでいる内容》 番号：②、③、④

- 2 あなたが所属している畜産クラスター協議会の目標について書いてください。

【飼養規模拡大・労働力の軽減】

- ① 担い手の育成 0人→2人（H34）
 ② 乳用経産牛の増頭 50頭→100頭（H34）
 ③ 乳用育成牛預託拡大： 70頭/年→120頭/年（H34）
 ④ TMR製造量拡大と供給体制整備： 2,500t/年→5,000t/年（H34）
 ⑤ 搾乳ロボット、掃き寄せロボット整備、コンポストバーン導入

周辺酪農家の多くが、哺育、育成、飼料生産、搾乳、飼養管理、堆肥還元等の生乳生産に係る全ての業務を経営体の中で完結しており、ほぼ年中無休の過重労働となっている。これらが規模拡大や休日及び余暇時間確保の妨げとなっている。

更に後継者不足、高齢化等が深刻化しつつあり、一部作業の分業化が望まれていた。

- 3 目標達成に向け、最も重点的に取り組んでいる内容を書いてください。

- ① 担い手の研修施設としての充実。
 ② 搾乳牛舎を整備し、増頭。一部妊娠牛として酪農家へ供給。
 ③ 乳用牛育成施設を整備し、町内外の育成牛預託を強化（H30.12 120頭）
 ④ TMR供給センターを拡充：ミキサー、ベルトコンベア等を1台追加し、2台体制にて年間2,500t→4,000t（H30見込）を製造し、町内外へ供給。不足する労働力はシルバー人材を活用。（発酵TMR、ドライTMRを供給）
 TMRにはチーズ工場で生じるホエイと爽健美茶粕、ウイスキー粕等を有効活用。
 ⑤ 搾乳ロボット、掃き寄せロボット導入し、労働負担の軽減を図っている。

- 4 目標達成度（実態・成果）を把握するための仕組み・体制を書いてください。

クラスター協議会事務局会議、幹事会等で報告。達成できない場合は、要因分析と改善方策についてメンバーで協議。

- ① 経産牛の頭数、育成牛の供給頭数
 ② 乳用育成預託牛頭数
 ③ TMR製造量と供給量
 ④ 供給先の反響（乳量・乳質、繁殖成績、課題等）
 ⑤ 作業時間の確認（酪農センター職員から聞き取り）
- 5 現在の目標達成度（成果）及び目標達成に向けて解決すべき課題を書いてください。
- ① 乳用育成牛は酪農協及び農家からの委託により目標を上回る頭数を確保。酪農センターで生産された雌子牛を妊娠牛として供給も開始したが、需要に応じ切れていない状況。
 ② TMR製造及び供給は目標の8割となっており、利用者の更なる開拓が必要。

氏名：

平成30年度畜産クラスター情報交換会に係る事前レポート

畜産クラスター情報交換会で使用する資料としますので、下記設問を【記入例】を参考に記入の上、平成31年2月8日（金）までに、メールもしくはFAXにてご提出ください。当日の資料として印刷配布し情報共有します。

記入方法については、「飼養頭数」「飼料用米栽培面積」等、重点的に取組んでいる内容を3つ選び、具体的に記載してください。

取組内容 (目標項目)	起点となる値	現状値	目標値	自己評価	要因分析・課題
	H28年度	H30年 9月	H34年度		
乳用育成牛 受入頭数	70頭	122頭	120頭	<ul style="list-style-type: none"> 乳用育成牛の預託受入に関してはほぼ計画通りで推移。 	<ul style="list-style-type: none"> 肉用肥育素牛の出荷頭数に関しては計画変更ありうる。
肉用肥育素牛 出荷頭数	30頭	13頭	100頭	<ul style="list-style-type: none"> 乳用牛不足から乳用受胎牛を大量導入。その後も乳用牛を計画的に種付けしたこともあり、F1生産頭数が減少。 	<ul style="list-style-type: none"> 和牛受胎の初妊牛を導入する予定であったが、乳用牛の不足を少しでも解消するために乳用牛受胎の妊娠牛を導入。生まれだ雌畜は妊娠牛として供給。
TMR製造量	2,500 t/年	1,820 t/年 (上半期)	5,000 t/年	<ul style="list-style-type: none"> 機械導入の遅れ、作業員不足等によって製造量の落ち込みが続いた時期があったものの、これらを解消したことにより、稼働率は上がり、酪農センター、町内外酪農家、肉用牛農家、飼料会社に安定供給。4,000 tの製造量を見込む。 	<ul style="list-style-type: none"> 製造工程の見直し、ミキサー2台、シルバーク人材の活用により改善。
研修生受入人数	0人	1人	2人	<ul style="list-style-type: none"> 6月まで2人であったが、うち1人が挫折。酪農を夢見るモチベーションの高い、爽やかな青年だっただけに非常に残念。 	<ul style="list-style-type: none"> これまで同様、関係機関と連携してやる気のある研修希望者を募る。

(事業主体名) 高萩地区クラスター協議会

(重点テーマ) ①自給飼料利用の拡大 ②畜産環境問題への対応 ③地域統一ブランド力の強化

④子牛生産基盤の強化 ⑤飼養管理の省力化

(活用事業) 機械導入事業

現状・課題

- ① 自給飼料のWCSは、品質が不安定(鳥獣被害、雑草混入、嗜好性低下)。
- ② 堆肥の臭気問題
- ③ 素牛価格等高騰する中、肉用牛経営はコスト高の厳しい経営。
- ④ 繁殖牛農家の高齢化、後継者不足による労働力不足。飼養頭数の減少・離農。
- ⑤ 給餌作業時間の短縮化

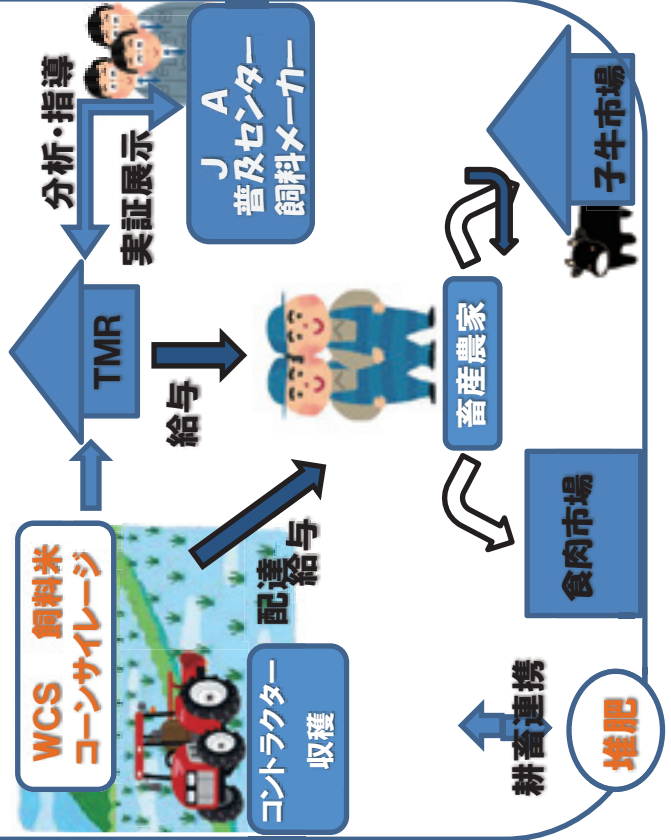
28年度 和牛、交雑牛部会員 14名、1,809頭出荷

目指す姿

- ① 良質な自給飼料をTMR生産等に活用し、生産拡大を図る。
- ② 堆肥処理時間の短縮化
- ③ 高品質な畜産物を安定的に生産し銘柄牛のブランド強化。コストの削減。
- ④ 先進的な機械装置を活用し、哺育育成技術の確立及び労働力の削減。

行動計画

- ① 自給飼料の生産・利用量の拡大と需給体制の確立。
- ② 堆肥の地域内有効利用の推進。
- ③ 地域統一ブランド力の強化。
- ④ 子牛生産基盤の強化。
- ⑤ 飼養管理の省力化。



期待される効果

- ① 自給飼料
H26:1,854t→H33:2,950t
TMR 生産・給与量
H27:2,010t→H33:4,500t
作付け面積
H27:335ha→H33:350ha
- ② 地域ブランドの販売額上物率
5% up
花園牛 (和牛)
H26:80%→H33:90%
雨情の里牛 (交雑種)
H26:70%→H33:85%
- ③ 子牛事故率の低減
H27:5%→H33:3%
- ④ 労働時間削減

収益向上効果 (計画ベース)

『地域の収益力の向上』

合計 28,974千円増収

協議会名：高萩地区クラスター協議会

平成30年度畜産クラスター情報交換会に係る事前レポート①

畜産クラスター情報交換会で使用する資料としますので、事前にご記入のうえ、平成31年2月8日（金）までにメールもしくはFAXにてご提出ください。記入方法については、作文形式でも、箇条書き形式でも構いませんが、当日の資料として印刷配布しますので、なるべく具体的に列挙してください。

=====以下、事前課題レポート=====

- 1 以下の選択肢より協議会として取り組んでいる内容すべてに○印をつけ、最も重点的に取り組んでいる内容について具体的に書いてください。

《選択肢》

- ①新規就農の確保 ②担い手の育成 ③労働負担の軽減 ④飼養規模の拡大、飼養管理の改善
⑤自給飼料利用の拡大 ⑥畜産環境問題への対応

《最も重点的に取り組んでいる内容》 番号：④、⑤

- 2 あなたが所属している畜産クラスター協議会の目標について書いてください。

- ・自給飼料の増産をし、高品質な畜産物を生産する。

- 3 目標達成に向け、最も重点的に取り組んでいる内容を書いてください。

- ・低コスト生産で高品質の畜産物を生産し、安定経営を確立する。
自給飼料を増産しTMR生産技術・飼養管理技術を確立する。

- 4 目標達成度（実態・成果）を把握するための仕組み・体制を書いてください。

- ・作業日誌等を基に面積・稼働時間・生産量等を把握し、会議を開催する。
- ・年4回の畜産物の共励会成績等を参考に、研究会を開催する

- 5 現在の目標達成度（成果）及び目標達成に向けて解決すべき課題を書いてください。

- ・自給飼料（WCS）集荷時期が集中する為天候不良で導入機械では圃場に入れない期間が発生した。
- ・素牛価格高騰の為、飼養頭数の減少。

平成30年度畜産クラスター情報交換会に係る事前レポート②

畜産クラスター情報交換会で使用する資料としますので、下記設問を【記入例】を参考にご記入の上、平成31年2月8日（金）までに、メールもしくはFAXにてご提出ください。当日の資料として印刷配布し情報共有します。
記入方法については、「飼養頭数」「飼料用米栽培面積」等、重点的に取組んでいる内容を3つ選び、具体的に記載してください。

取組内容 (目標項目)	起点となる値		現状値		目標値		自己評価	要因分析・課題
	27年度	H28年	H28年	H32年度				
自給飼料利用の拡大	稲wcs 1,057t 飼料米 1,347t	稲wcs 1,102 t 飼料米 1,626t	稲wcs 1,400t 飼料米 1,550t		取組は順調に進んでおり、目標年度までに達成可能である。 ・主食米から飼料米への移行が進み、飼料米は目標値達成	・稲wcsについては、品質の不安定化（鳥獣被害・雑草混入など）による畜産農家からのクレーン発生。早期の倉庫への移動や、圃場管理の徹底による改善を行く。 ・格付け等級ごとの価格差の多い（100円位）相場展開の中、子牛価格の高騰により、生産コストが上昇している。今後、経営安定化の為、枝肉重量アップを目指す。		
地域統一ブランド力の強化	上物率 花園牛 83% 雨情の里牛 78%	上物率 花園牛 83% 雨情の里牛 87%	上物率 花園牛 90% 雨情の里牛 85%		既に目標を達成 ・肥育牛部会員の高レベル肥育牛技術で目標達成 ※花園牛（年間1,104頭）B雨情の里牛（年間705頭）F1			
子牛生産基盤の強化	繁殖牛 農家 40戸 繁殖牛 450頭	繁殖牛 農家 39戸 繁殖牛 490頭	繁殖牛 農家 40戸 繁殖牛 500頭		取組は順調に進んでおり目標年度までには達成可能 ・肥育牛農家による一貫経営への移行が進み、繁殖牛は増頭。	・繁殖牛農家の労力低減等のため、協議会で導入した哺育ロボットを活用した技術・データの普及啓蒙で増頭及び、増頭を目指す。		

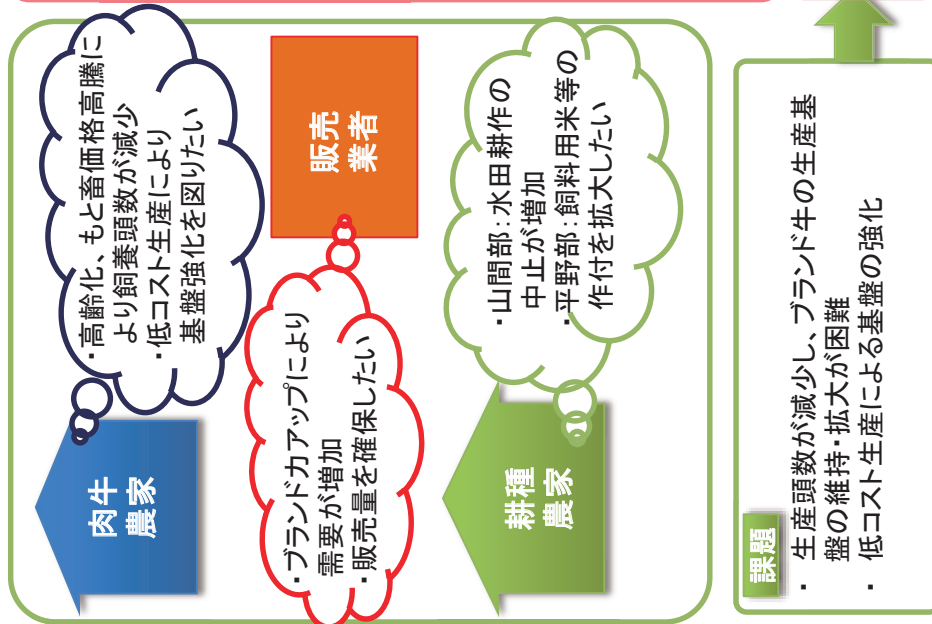
耕畜連携（水田放牧、自給飼料生産）によるブランド基盤の強化に向けた取り組み

（氷見市耕畜連携農業推進協議会）

- ・水田・耕作放棄地への放牧による労働力、コスト低減により肉用牛経営の規模拡大を図る。
- ・耕種農家との連携により飼料用米、稲WCS等自給飼料の生産・利用を拡大することで、地域全体で低コスト生産、高付加価値化、生産量の増大を図る。

現状と課題

生産基盤の弱体化が課題



取組内容

耕畜連携により水田放牧や自給飼料生産を拡大し、肉用牛生産基盤を強化

地域ぐるみでブランド（氷見牛）基盤の強化



効果1

耕種農家と畜産農家が連携し、地域内自給飼料の生産・利用拡大により生産コストの低減、高付加価値化

効果2

肉用牛経営の規模拡大により、ブランド基盤を強化

協議会名： 氷見市耕畜連携協議会

平成30年度畜産クラスター情報交換会に係る事前レポート①

畜産クラスター情報交換会で使用する資料としますので、事前にご記入のうえ、平成31年2月8日（金）までにメールもしくはFAXにてご提出ください。記入方法については、作文形式でも、箇条書き形式でも構いませんが、当日の資料として印刷配布しますので、なるべく具体的に列挙してください。

=====以下、事前課題レポート=====

- 1 以下の選択肢より協議会として取り組んでいる内容すべてに○印をつけ、最も重点的に取り組んでいる内容について具体的に書いてください。

《選択肢》

- ①新規就農の確保 ②担い手の育成 ③労働負担の軽減 ④飼養規模の拡大、飼養管理の改善
⑤自給飼料利用の拡大 ⑥畜産環境問題への対応

《最も重点的に取り組んでいる内容》 番号： 4

- 2 あなたが所属している畜産クラスター協議会の目標について書いてください。

- ・肥育頭数の増頭
- ・繁殖牛頭数の増頭
- ・稲 WCS 栽培面積の拡大
- ・放牧面積の拡大
- ・堆肥散布面積の拡大

- 3 目標達成に向け、最も重点的に取組んでいる内容を書いてください。

- ・増頭に向け地域内の中心経営体において肥育牛舎の建設

- 4 目標達成度（実態・成果）を把握するための仕組み・体制を書いてください。

- ・毎月末に牛舎を訪問し、頭数調査をしている。また、マルキンの申請事務をJAで委託を受け、申請しているため、導入・販売頭数の把握は出来ている。

- 5 現在の目標達成度(成果)及び目標達成に向けて解決すべき課題を書いてください。

- ・高齢化により、廃業を予定されている農家がいるため、頭数の増頭が難しい。新規就農者の育成、意欲のある中心経営体が増頭できる規模の牛舎の建設。

平成30年度畜産クラスター情報交換会に係る事前レポート②

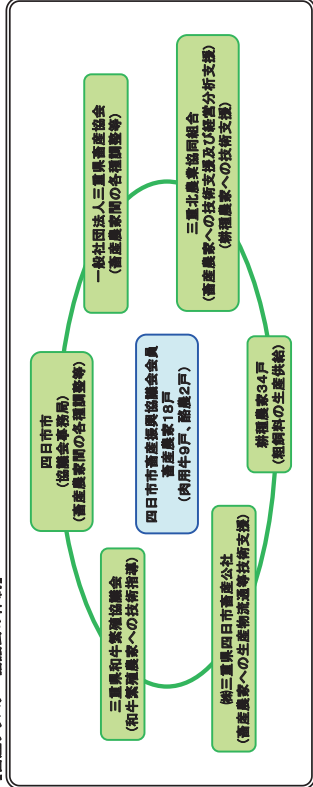
畜産クラスター情報交換会で使用する資料としますので、下記設問を【記入例】を参考に記入の上、平成31年2月8日（金）までに、メールもしくはFAXにてご提出ください。当日の資料として印刷配布し情報共有します。
記入方法については、「飼養頭数」「飼料用米栽培面積」等、重点的に取組んでいる内容を3つ選び、具体的に記載してください。

取組内容 (目標項目)	起点となる値		現状値	目標値	自己評価	要因分析・課題
	H26年度	H30年 11月	H30年度			
肥育牛頭数の増頭	786	643 ※H30.2 月時点	866		目標達成が困難な状況となっており、目標設定の見直しが必要である。	高齢化による廃業が目標設定当初の想定より著しく多く、また、素牛価格の高騰により導入頭数が減少した。
繁殖牛頭数の増頭	92	124	130		取組は順調に進んでおり、目標達成が可能。	
稲 WCS 栽培面積の拡大	30.8ha	25ha	45.1ha		目標達成が困難な状況となっており、目標設定の見直しが必要である。	現在保有している収穫機では面積増加に対応できない。現在は畜産農家が収穫期を保有しているが、耕種農家にも保有してもらう必要がある。

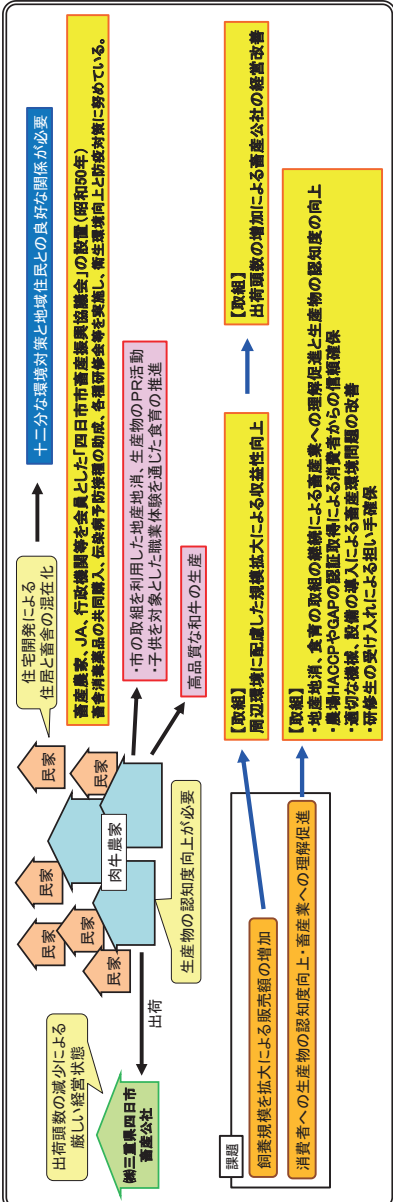
四日市市畜産クラスター協議会(肉用牛・酪農部門)

「生産コスト削減(飼料代、労働時間等)」、「周辺環境に配慮した規模拡大」、「市民への畜産業の理解促進・生産物PR」により地域全体の収益性向上を目指す。

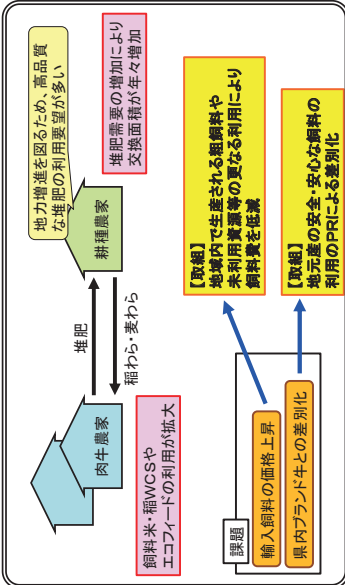
【畜産クラスター協議会の体制】



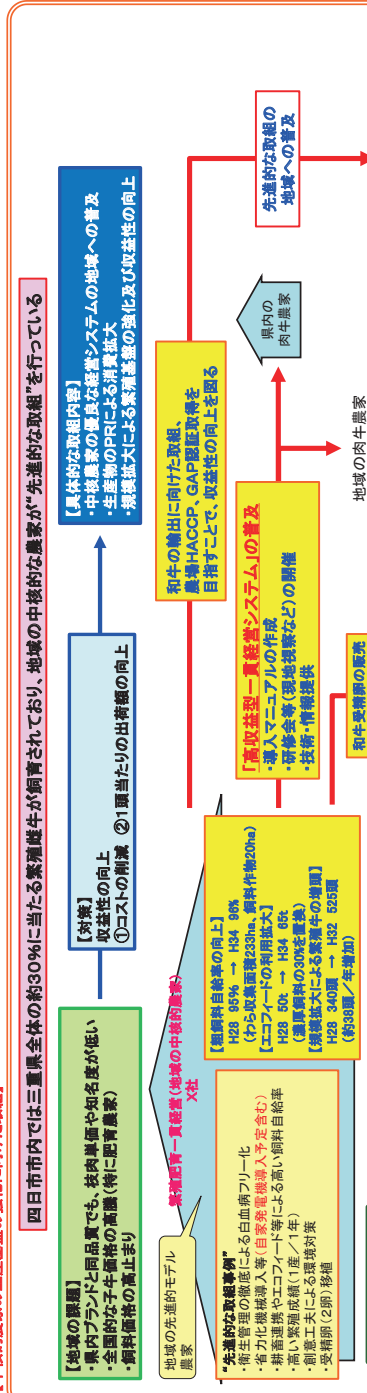
【テーマ1】飼養規模の拡大、飼養管理の改善(付随テーマ:畜産環境問題・担い手の育成への対応)



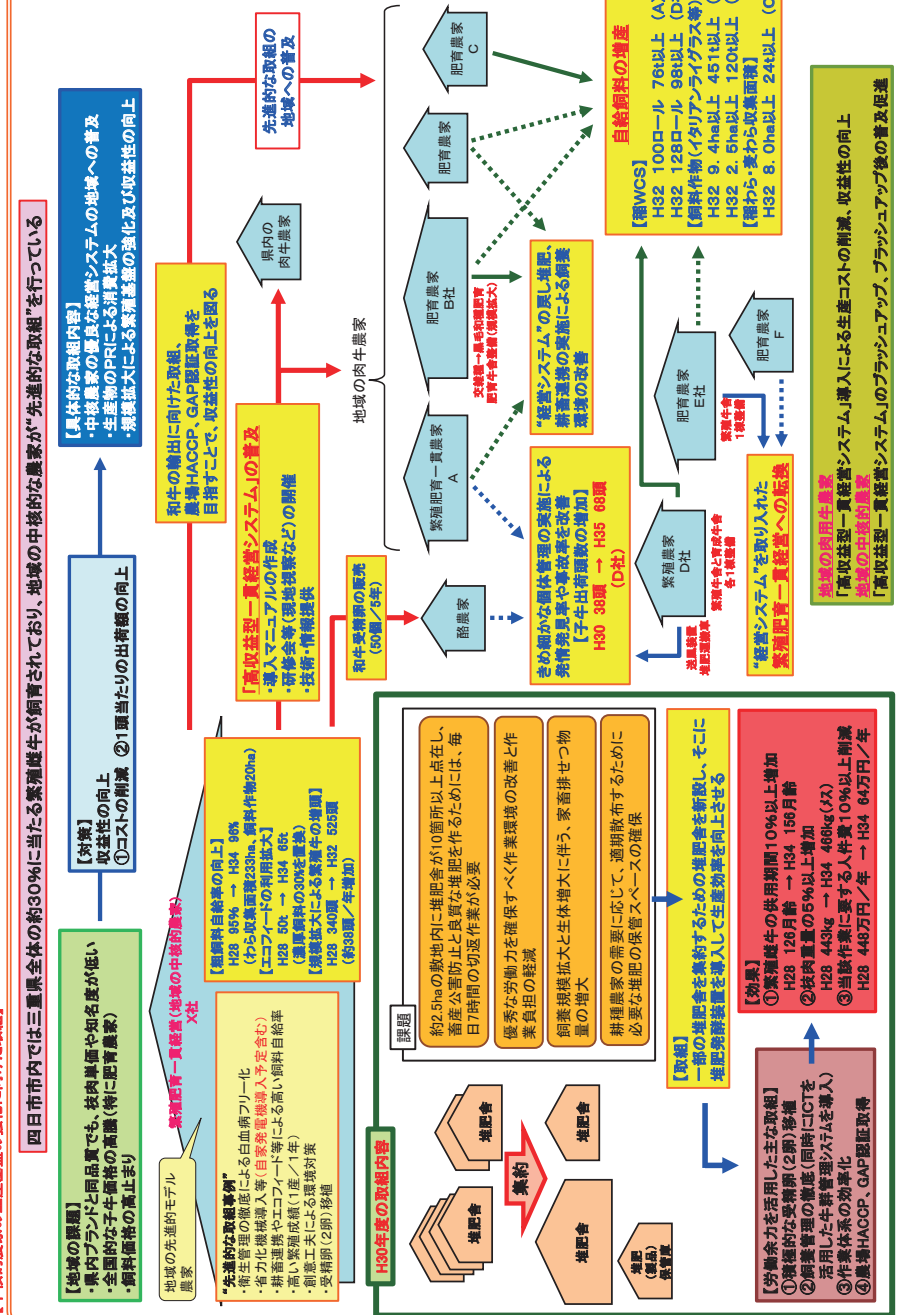
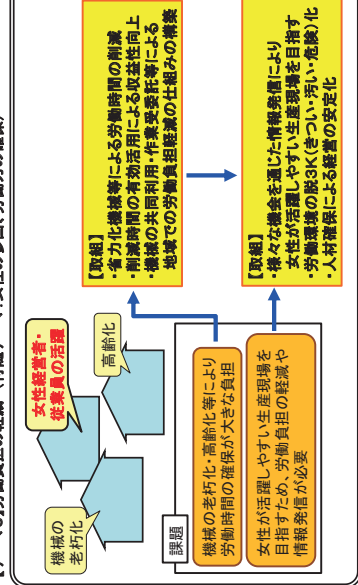
【テーマ2】自給飼料の利用拡大



【中核的農家の生産量への強化に向けた取組】



【テーマ3】労働負担の軽減(付随テーマ:女性の参画、労働力の確保)



協議会名：四日市市畜産クラスター協議会

平成30年度畜産クラスター情報交換会に係る事前レポート①

1 以下の選択肢より協議会として取り組んでいる内容すべてに○印をつけ、最も重点的に取り組んでいる内容について具体的に書いてください。

《選択肢》

- ①新規就農の確保 ②担い手の育成 ③労働負担の軽減
 ④飼養規模の拡大、飼養管理の改善 ⑤自給飼料利用の拡大
 ⑥畜産環境問題への対応

《最も重点的に取り組んでいる内容》 番号：④

2 あなたが所属している畜産クラスター協議会の目標について書いてください。

- ①繁殖雌牛の増頭に基づく出荷頭数の増加により収益力向上を図る。
- ②畜舎の衛生管理を向上させ、病原微生物等の汚染リスクを減らし健康な家畜を生産するため農場HACCPの認証取得や、消費者の信頼を得るための畜産GAPの認証取得に向けて取り組む。
- ③耕畜連携の強化を図って、稲わら・麦わら・飼料用米等の利用を拡大するとともに、エコフィード（おからサイレージ）を普及させることによって、地域内の飼料自給率の向上を図る。
- ④中核的農家からの繁殖雌牛の提供や「高収益型一貫経営システム」の普及によって、肥育経営から繁殖肥育一貫経営への転換を促進させる。
- ⑤畜産農家と耕種農家との連携を深め、地域内で生産される飼料用米、稲WCS、飼料作物及び稲わら・麦わら等の利用拡大により飼料費の低減を図る。
- ⑥農地への堆肥の還元面積を拡大して家畜排せつ物の適正利用を促進し、耕種農家の肥料費削減により同農家の収益性向上に貢献する。
- ⑦省力化機械等の導入によって優秀な人材の確保が容易となり、経営の安定化を図る。また、女性が活躍しやすい生産環境を作り、労働力確保に努め、各方面に情報発信を図る。

3 目標達成に向け、最も重点的に取り組んでいる内容を書いてください。

繁殖雌牛の増頭

4 目標達成度（実態・成果）を把握するための仕組み・体制を書いてください。
生産者からの報告及び決算書等の資料の提出によって把握している。

5 現在の目標達成度（成果）及び目標達成に向けて解決すべき課題を書いてください。

大規模生産者は比較的資金力に余裕があるため飼養規模の拡大や省力化機械の導入が進むが、中小規模の生産者にはそのような余裕がなく、設備投資が進まない。また、混住化が進むため、畜舎建設に適した用地の確保も困難な状況にある。

氏名：

取組内容 (目標項目)	起点となる値	現状値	目標値	自己評価	要因分析・課題
	H27年度	H29年3月	H32年度		
繁殖雌牛の増大	375頭	405頭	525頭	取組みは概ね順調に進んでおり、目標達成は可能である見込み。	
出荷頭数の増大	308頭 (うち子牛0頭)	380頭 (うち子牛5頭)	445頭 (うち子牛5頭)	肥育牛の出荷頭数は概ね順調に進んでおり、目標達成は可能であると思われるが、子牛の出荷頭数については目標達成が困難な様相である。	当初出荷先として予定していた肥育生産者が、引続き市場からの購入を予定しているため。しかし、当該出荷元は全頭牛白血病フリーな状況下であるため、今後の動向次第では目標達成の可能性も残っている。
稲わら・麦わらと堆肥との交換面積の拡大	160ha	190ha	233ha	取組みは順調に進んでおり、目標達成は可能である見込み。	

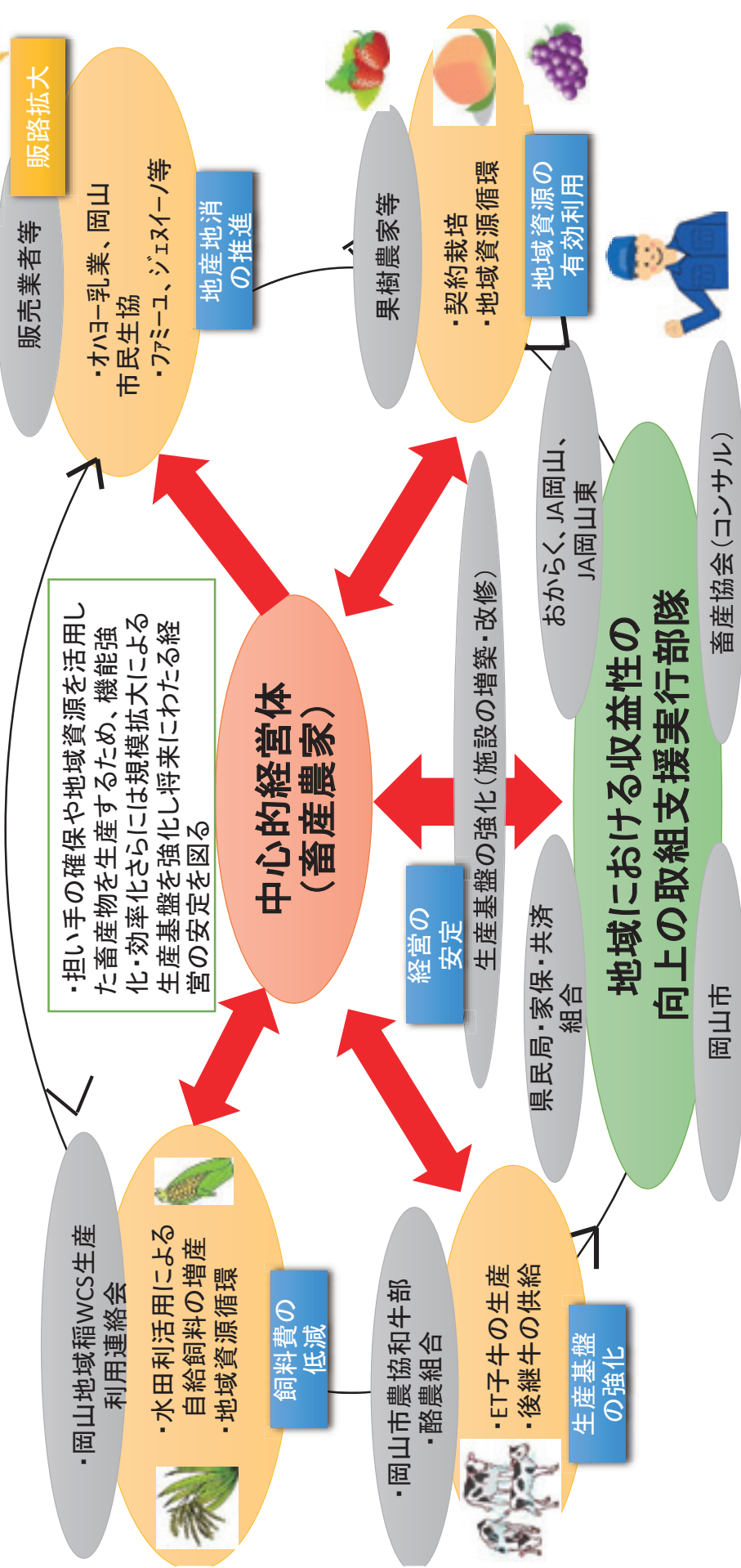
岡山市畜産クラスター協議会

目指す方向

・岡山市内の畜産経営を機能強化・効率化するとともに規模拡大により、後継者等の経営安定を図る。
さらに、地域資源を有効利用した低コストで、付加価値を高めた特色ある地域ブランド畜産物の推進を図る。



岡山市畜産クラスター協議会



目指す方向

- ・岡山市内の畜産経営を機能強化・効率化するとともに規模拡大により、後継者等の経営安定を図る。さらに、地域資源を有効利用した低コストで、付加価値を高めた特色ある地域ブランド畜産物の推進を図る。
- 協議会：岡山市畜産クラスター協議会
 役割：地域の収益性の向上を図るための計画(クラスター計画)を検討し、その計画の実現のために必要な取組を行う。
 協議会事務局(岡山市、おからく、JA岡山)
 取組主体等(松崎牧場、安富牧場)

協議会名：岡山市畜産クラスター協議会

平成30年度畜産クラスター情報交換会に係る事前レポート①

畜産クラスター情報交換会で使用する資料としますので、事前にご記入のうえ、平成31年2月8日（金）までにメールもしくはFAXにてご提出ください。記入方法については、作文形式でも、箇条書き形式でも構いませんが、当日の資料として印刷配布しますので、なるべく具体的に列挙してください。

=====以下、事前課題レポート=====

- 1 以下の選択肢より協議会として取り組んでいる内容すべてに○印をつけ、最も重点的に取り組んでいる内容について具体的に書いてください。

《選択肢》

- ①新規就農の確保 ②担い手の育成 ③労働負担の軽減 ④飼養規模の拡大、飼養管理の改善
⑤自給飼料利用の拡大 ⑥畜産環境問題への対応

《最も重点的に取り組んでいる内容》 番号：3, 5

- 2 あなたが所属している畜産クラスター協議会の目標について書いてください。

- 乳用牛飼養頭数の現状維持
- 地域内6次産業化部門の強化
- 稲WCS等の栽培面積拡大
- 酪農家の労働負担軽減

- 3 目標達成に向け、最も重点的に取り組んでいる内容を書いてください。

搾乳ロボット等の省力化機械導入により、酪農家の労働負担の軽減を図っている。

この目標を達成するために、クラスター事業を活用し、H29年度にはフリーストール牛舎、搾乳ロボット、自動餌寄せロボット等を整備し、またH30年度は、搾乳ロボットを1台導入することになっている。

- 4 目標達成度（実態・成果）を把握するための仕組み・体制を書いてください。

協議会の構成員には、酪農専門農協のおかやま酪農業協同組合が参加しているため、農協を通じて、取組状況及び事業効果の把握や進行管理が確認できている。

また、協議会では、年1回総会及び研修会を開催しており、取組主体から直接経営状況や成果等を報告してもらっている。

- 5 現在の目標達成度（成果）及び目標達成に向けて解決すべき課題を書いてください。

- 岡山市内では、畜産農家周辺の混住化が急速に進み、大幅な規模拡大ができない環境にある。
- 岡山県内では、6次化に取り組む畜産農家が増えており、地域産ブランドの6次化商品のPR及び販売拡大の推進方策を検討する必要がある。
- 耕畜連携により地域産粗飼料の生産・利用の拡大を図っているが、畜産農家と耕種農家との間で品質や数量で、不整合が生じている。
- 搾乳ロボット等の省力化機械導入後の乳用牛飼養管理を確立していく必要がある。

平成30年度畜産クラスター情報交換会に係る事前レポート②
畜産クラスター情報交換会で使用する資料としますので、下記設問を【記入例】を参考に記入の上、平成31年2月8日（金）までに、メールもしくはFAXにてご提出ください。当日の資料として印刷配布し情報共有します。
記入方法については、「飼養頭数」「飼料用米栽培面積」等、重点的に取組んでいる内容を3つ選び、具体的に記載してください。

取組内容 (目標項目)	起点となる値		現状値		目標値	自己評価	要因分析・課題
	H27年度	H30年 3月	H30年 3月	H33年度			
乳用牛飼養頭数の維持	1,561頭	1,327頭	1,327頭	1,561頭	取組みが順調ではないが、今後の改善により目標達成可能。	<ul style="list-style-type: none"> ●2戸の離農者により地域の飼養頭数が減少 ●規模拡大予定の中心的経営体の施設整備等が完了し、今後の増頭が見込まれる。 	
稲WCS栽培面積の増加	51.7ha	49.6ha	49.6ha	58.0ha	概ね目標どおりの成果が出ている。	<ul style="list-style-type: none"> ●畜産農家の利用が拡大していないため、耕種農家による稲WCS等の生産がやや停滞している。 ●畜産農家と耕種農家との間で、品質や数量について不整合が生じているため、品質向上や利用拡大に向けた巡回指導や研修会を開催する。 	
地域内6次産業化	120,946千円	114,833千円	114,833千円	192,042千円	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の6次化商品の販売は好調 ・小売店と連携した牧場見学や牛乳・乳製品への理解醸成活動により地元製品の販売拡大に繋がっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 一時的な消費拡大イベントだけでなく、牛乳の生産工程等の見学を通じて、牛乳・乳製品への理解醸成をさらに進め、継続的な消費拡大に繋げる取組が必要。 	

協議会名：岡山県酪農振興クラスター協議会

平成30年度畜産クラスター情報交換会に係る事前レポート①

畜産クラスター情報交換会で使用する資料としますので、事前にご記入のうえ、平成31年2月8日（金）までにメールもしくはFAXにてご提出ください。記入方法については、作文形式でも、箇条書き形式でも構いませんが、当日の資料として印刷配布しますので、なるべく具体的に列挙してください。

=====以下、事前課題レポート=====

- 1 以下の選択肢より協議会として取り組んでいる内容すべてに○印をつけ、最も重点的に取り組んでいる内容について具体的に書いてください。

《選択肢》

- ①新規就農の確保 ②担い手の育成 ③労働負担の軽減 ④飼養規模の拡大、飼養管理の改善 ⑤自給飼料利用の拡大 ⑥畜産環境問題への対応

《最も重点的に取り組んでいる内容》 番号： 2

- 2 あなたが所属している畜産クラスター協議会の目標について書いてください。

畜産・酪農において、農家戸数の減少・飼養頭数の減少により生産基盤の弱体化が進む中で持続的な畜産・酪農を推進するため、生産コストの低減・飼養規模の拡大とともに、畜産物の付加価値の向上や新たな需要創出等を進めることで高収益な畜産・酪農を実現し、地域ぐるみで収益性を向上させることを目標としています。

- 3 目標達成に向け、最も重点的に取り組んでいる内容を書いてください。

地域に存在する各種支援組織や関連産業の関係者が連携・集結することで地域ぐるみの体制を構築し、下記の取組を行っています。

- ・岡山県酪農支援チーム、酪農協との情報交換。
- ・各地域のクラスター協議会との連携、協力。
- ・飼養規模拡大、収益性向上、作業の省力化に向けた取り組みの推進。

例えば、協議会事務局が酪農協にある事から組合事業で推進できる取組としては自給飼料利用の推進（稲 WCS 等の購買扱い）、自家育成牛確保の為に雌受精卵や雌選別精液の供給、肉用素牛生産と収益向上の為に和牛受精卵移植、カウコンフォート・暑熱対策等の飼養管理改善指導、機械リースなど

- 4 目標達成度（実態・成果）を把握するための仕組み・体制を書いてください。

各種支援組織や岡山県酪農支援チームとの情報交換と相談を行い、各地域の巡回指導内容や各種事業の参加状況、年度毎の取り組み実績の報告を受けています。

- 5 現在の目標達成度（成果）及び目標達成に向けて解決すべき課題を書いてください。

当協議会は平成27年度に設立されましたが対象地域は岡山県内一円であり施設整備事業を実施していない事で、その後設立された地域に即した各クラスター協議会に比べて地域特性や一部地域での取組効果は表れにくい欠点があります。今までの流れとして、当初から当協議会の中心的な経営体であった経営体が各地域の協議会の中心的な経営体として先進的な取り組みを行っている事から、各地域のクラスター協議会との連携、協力は更に重要となり、複数の協議会に属する経営体を中心とした波及効果を促進する対策が必要と考えられます。

平成30年度畜産クラスター情報交換会に係る事前レポート②

畜産クラスター情報交換会で使用する資料としますので、下記設問を【記入例】を参考に記入の上、平成31年2月8日（金）までに、メールもしくはFAXにてご提出ください。当日の資料として印刷配布し情報共有します。
記入方法については、「飼養頭数」「飼料用米栽培面積」等、重点的に取組んでいる内容を3つ選び、具体的に記載してください。

取組内容 (目標項目)	起点となる値		現状値		目標値		自己評価	要因分析・課題
	H27年度	H30年 6月	H30年 6月	H32年度				
新規就農者の販売額増加。	81,045,801 円	96,746,354 円	146,369,046 円		取組は順調に進んでおり今後目標達成可能。	29年度事業の機械導入が出来ておらず、事業の進行が遅れている。		
担い手の販売額の増加。	430,194 万円	454,291 万円	451,704 万円		概ね目標とおりの成果が出ている。	担い手の増産意欲が高い。		
労働負担軽減に取り組む農家の収入の増加。	396,704 万円	404,415 万円	404,639 万円		概ね目標とおりの成果が出ている。	労働負担が緩和され、増頭・増産につながった。		

キャトルセンターおよびICT機器を活用した肉用牛繁殖基盤強化による農家所得向上

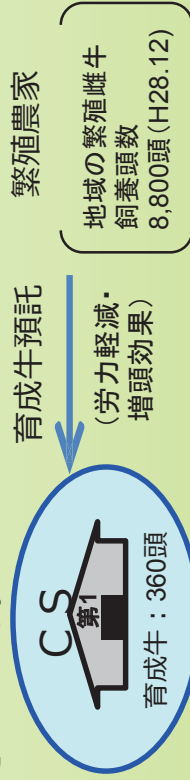
目的

長崎県 ながさき県北畜産クラスター協議会

・農家の高齢化等を背景とした、生産基盤の弱体化が急速に進んでいる。このような状況を歯止めをかけ産地の飛躍に繋げるため、肉酪枠を利用し、キャトルセンター(CS)の増設(360頭→660頭)、JAリース牛舎整備、省力化機械の導入と併せ、ICT機器を活用した繁殖管理システムの構築に取組むことにより、生産基盤の強化を図る。

現状と課題

- ・CS等を活用し、労力低減を図りながら肉用牛繁殖経営が行われている。
- ・畜産クラスターの取組の成果もあり、繁殖雌牛の飼養頭数は増加に転じるなど明るい兆しも見え始めている。
- ・既存CSは、受入頭数の上限に達しており、増設を要望する声が生産者より上がっている。
- ・CS受入要望の増加に伴い、受入を断るケースが発生しており、CSの活用を見越した規模拡大が困難となっている。
- ・多頭化に伴う1頭あたりの観察時間減少等により発情発見率の低下や分娩時の事故率の上昇が危惧されている。



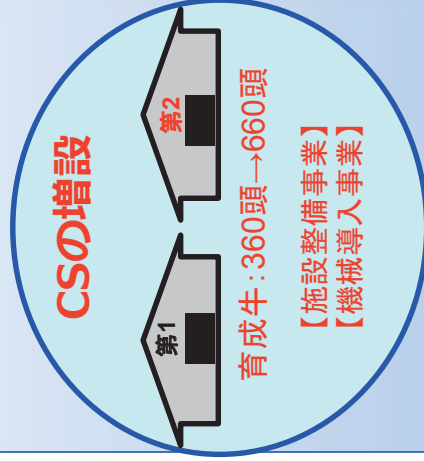
クラスター協議会の構成員

JAながさき西海、長崎県(県北振興局、肉用牛改良センター)
佐世保市、平戸市、松浦市、佐々町、小値賀町
県北部農業共済組合、繁殖部会、肥育部会
松浦地区畜産振興会、全和登県支部北松支所

取組内容(肉酪枠)

- ・CS増設、JAリース牛舎整備、母牛導入、機械整備等による肉用牛増頭
- ・ICT機器を活用した繁殖管理システムの構築による生産性向上

JA等の取組



- 育成牛預託 (労力軽減・増頭効果)
- 技術提供 (波及効果)
- (飼養管理技術向上)

繁殖農家の取組

規模拡大・新規就業
による繁殖雌牛増頭



【施設整備事業】
【機械導入事業】

繁殖管理システムの実践による
農家所得向上

- ・CS預託による空きスペースを活用した増頭
- ・機械導入による自給飼料の拡大

取組目標

繁殖雌牛の協議会平均飼養規模

8.4頭/戸(H27)⇒10頭/戸(H32)

自給飼料面積の拡大

29.6a/頭 (H27)⇒30a/頭(H32)

《調査・実証事業の取組内容》

- ・検討会の開催
- ・先進事例調査
- ・ICT機器現地実証等

協議会名： ながさき県北畜産クラスター協議会

平成30年度畜産クラスター情報交換会に係る事前レポート①

畜産クラスター情報交換会で使用する資料としますので、事前にご記入のうえ、平成31年2月8日（金）までにメールもしくはFAXにてご提出ください。記入方法については、作文形式でも、箇条書き形式でも構いませんが、当日の資料として印刷配布しますので、なるべく具体的に列挙してください。

=====以下、事前課題レポート=====

- 1 以下の選択肢より協議会として取り組んでいる内容すべてに○印をつけ、最も重点的に取り組んでいる内容について具体的に書いてください。

《選択肢》

- ①新規就農の確保 ②担い手の育成 ③労働負担の軽減 ④飼養規模の拡大、飼養管理の改善
⑤自給飼料利用の拡大 ⑥畜産環境問題への対応

《最も重点的に取り組んでいる内容》 番号： ④

- 2 あなたが所属している畜産クラスター協議会の目標について書いてください。

- ・クラスター協議会員平均飼養規模 10頭/戸（現状 10.2 頭/戸：H30.4.1）
- ・ヘルパー組織の育成 3件（現状2件：H30.4.1）
- ・1頭当り飼料面積 30a（現状 47.1a：H30.4.1）

- 3 目標達成に向け、最も重点的に取組んでいる内容を書いてください。

- ・規模拡大希望者等を含む中心的経営体が、適切な畜舎や畜産環境施設、家畜導入を行い、産地の飼養頭数の維持・拡大を図る。

- 4 目標達成度（実態・成果）を把握するための仕組み・体制を書いてください。

- ・県が実施する調査（飼養頭数、飼料作付面積等）
 - ・クラスター構成機関が定期的実施する調査
- 上記により、目標達成度の把握を行い、目標達成に向けた指導を協議会が実施する。

- 5 現在の目標達成度（成果）及び目標達成に向けて解決すべき課題を書いてください。

【目標達成度（成果）】

これまでに20戸の農家が施設整備を行い、704頭の増頭が図られた

【課題】

施設整備事業による増頭が図られている一方、農家高齢化による離農が進んでおり、頭数の維持・拡大が進むか懸念される。

※参考

農家戸数：H26 1,043 戸 → H30 850 戸

農家年代割合（H30） 60代：38%、70代：19%、80代以上：10%

平成30年度畜産クラスター情報交換会に係る事前レポート②

畜産クラスター情報交換会で使用する資料としますので、下記設問を【記入例】を参考にご記入の上、平成31年2月8日（金）までに、メールもしくはFAXにてご提出ください。当日の資料として印刷配布し情報共有します。
記入方法については、「飼養頭数」「飼料用米栽培面積」等、重点的に取組んでいる内容を3つ選び、具体的に記載してください。

取組内容 (目標項目)	起点となる値		現状値	目標値	自己評価	要因分析・課題
	H26年度	H30年 4月	H33年度			
飼養規模の拡大	8.4頭/戸	10.2頭/戸	10頭/戸		取組は順調に進んでおり、前倒しで目標達成が可能。	<ul style="list-style-type: none"> 県・市の上乗せ補助の実施。 子牛価格の高止まりにより牛舎建設による増頭が進んだため。 (課題) 妊娠牛等の導入価格が高く、農家負担が大きい。
自給飼料の拡大	29.6a/頭	47.1a/頭	30a/頭		取組は順調に進んでおり、前倒しで目標達成が可能。	<ul style="list-style-type: none"> 県・市の上乗せ補助の実施。 機械リース事業により、飼料作物関連機械の導入が進んだため
労働負担の軽減 (ヘルパー組織の育成)	0組織	2組織	3組織		取組は順調に進んでおり、目標達成が可能。	<ul style="list-style-type: none"> (課題) ヘルパー作業員や事務局員の確保

杵築市畜産クラスター協議会の取組

～中山間地域の畜産農家及び関係者との連携強化による収益力向上～ 1. 目標及び取組内容

① 地域内一貫生産の強化

【飼養規模の拡大】
 繁殖 (H28) 396頭 → (H35) 850頭(約114%増)
 肥育 1268頭 → 1373頭(約8%増)
 【経営内一貫経営等のモデル確立】 } モデル化のための
 一産取和牛の一貫経営 技術・経営指導
 和牛の一貫経営
 【オレイン酸の高い和牛の生産】
 オレイン酸測定及び県産食肉の理解醸成

② 自給飼料生産の拡大

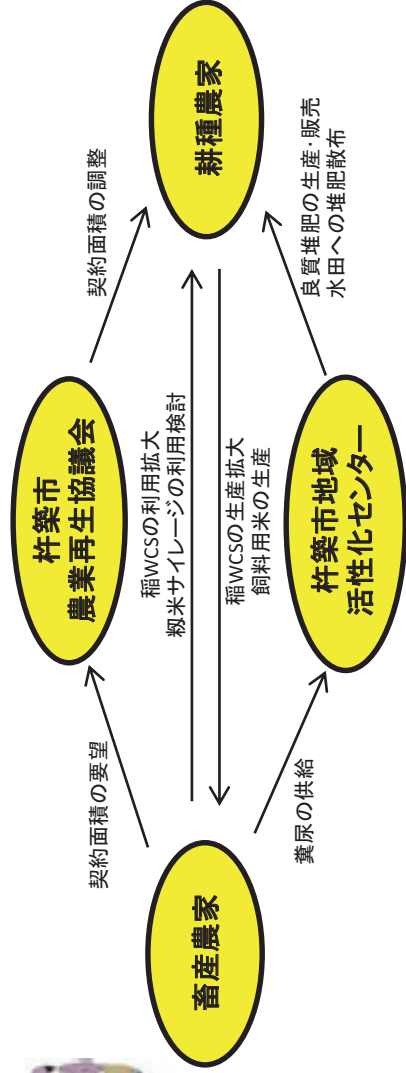
【機械導入による生産拡大】
 稲WCS (H28) 90ha → (H33) 110ha (約222%増)
 牧草等 100ha → 120ha (約20%増)
 飼料米 60ha → 80ha (約33%増)
 【生産性向上】
 展示実証圃を活用し、単収及び品質の向上のための
 技術指導を実施

③ 担い手の育成

【後継者組織の設立】
 ・15戸における組織の設立(H28)
 ・WCS利用研修会の開催(H29～)
 ・SGS利用研修会の開催(H30～)
 ・定期的な飼養管理や飼料作物栽培に
 関する技術研修会の開催(H28～)

② 自給飼料利用の拡大

【中山間地域における耕種農家との連携強化】
 ・畜産農家の規模拡大に応じて増加する堆肥を
 耕種農家に供給する取組を推進
 【飼料用米の利用拡大】
 ・市事業を活用し、水田の利用活用を推進するため、
 稲米サイレージ(SGS)の利用検討及び普及拡大に
 よる飼料コスト低減
 (H27) SGS講習会実施
 (H28) SGS先進地域の視察→製作業体系の確立
 (H29) SGS試験製造及び給与実証(製造機械導入)
 (H30) SGS利用農家の拡大→地域内普及推進



2. 効果

【飼養規模拡大による産地規模の確保】

・地域内で、559頭の増頭(現状の約33%増)により、杵築市の基幹産業である酪肉の生産基盤を強化。

【中心的経営体2件の規模拡大による売上高の向上】

・育成舎2棟、分娩舎1棟、哺乳舎1棟、牛舎改築2棟の施設整備により、

① <繁殖雌牛頭数> (H29) 繁殖96頭 → (H35) 繁殖273頭 (増頭計画の40%)

② <子牛販売額> (H29) 10.3百万円(出荷頭数17頭) → (H35) 73.2百万円(出荷頭数175頭) 売上約7.1倍UP

【自給飼料生産・利用拡大による飼料費低減】

・自給飼料生産拡大により、(H28) 自給飼料作付け 250ha → (H33) 310ha 15戸での飼料費低減 33百万円

協議会名：大分県杵築市畜産クラスター協議会

平成30年度畜産クラスター情報交換会に係る事前レポート①

畜産クラスター情報交換会で使用する資料としますので、事前にご記入のうえ、平成31年2月8日（金）までにメールもしくはFAXにてご提出ください。記入方法については、作文形式でも、箇条書き形式でも構いませんが、当日の資料として印刷配布しますので、なるべく具体的に列挙してください。

=====以下、事前課題レポート=====

- 1 以下の選択肢より協議会として取り組んでいる内容すべてに○印をつけ、最も重点的に取り組んでいる内容について具体的に書いてください。

《選択肢》

- ①新規就農の確保 ②担い手の育成 ③労働負担の軽減 ④飼養規模の拡大、飼養管理の改善 ⑤自給飼料利用の拡大 ⑥畜産環境問題への対応

《最も重点的に取り組んでいる内容》 番号：⑤

- 2 あなたが所属している畜産クラスター協議会の目標について書いてください。

- (1) 子牛出荷額の増加（4経営体289頭175百万円）
 (2) 肥育牛出荷額の増加（4経営体766頭58,743百万円）
 (3) 自給飼料作付面積の拡大（WCS20ha、飼料作物25ha、飼料用米15ha）
 (4) 自給飼料利用拡大による飼料費の削減（33百万）
 (5) 粳米サイレージ（SGS）の利用拡大（H29 3戸5ha→H33 15戸20ha）
 (6) 認定農業者の育成（3名増加農業所得12,000千円）

- 3 目標達成に向け、最も重点的に取り組んでいる内容を書いてください。

- ・粳米サイレージ（SGS）の利用拡大

- 4 目標達成度（実態・成果）を把握するための仕組み・体制を書いてください。

- ・青色申告書及び経営実績での確認
- ・毎年2月の頭数調査での確認
- ・確認者：杵築市役所農林課（事務局）、大分県東部振興局畜産班、大分県宇佐家畜保健衛生所、大分県農業協同組合東部事業部

- 5 現在の目標達成度（成果）及び目標達成に向けて解決すべき課題を書いてください。

- 2—(1)、(2)、(4)についてはH29事業であり実績値が出るのはH31以降
 (3) WCS20ha、飼料作物20haの作付け面積増
 (5) H28(0戸0h) → H29(3戸5ha) → H30(15戸5h)
 (6) 認定農業者数1名増

課題：粳米サイレージ（SGS）の地域内生産体制（受注→生産→販売）の確立

平成30年度畜産クラスター情報交換会に係る事前レポート②

畜産クラスター情報交換会で使用する資料としますので、下記設問を【記入例】を参考にご記入の上、平成31年2月8日（金）までに、メールもしくはFAXにてご提出ください。当日の資料として印刷配布し情報共有します。
記入方法については、「飼養頭数」「飼料用米栽培面積」等、重点的に取組んでいる内容を3つ選び、具体的に記載してください。

取組内容 (目標項目)	起点となる値		現状値		目標値		自己評価	要因分析・課題
	H28年度	H30年2月	H30年2月	H33年度	H28年度	H33年度		
飼養頭数の増加	繁殖母牛396頭 肥育牛1,268頭 経産牛639頭	H30年2月 繁殖母牛680頭 肥育牛1,089頭 経産牛633頭	繁殖母牛850頭 肥育牛1,373頭 経産牛637頭	順調に進んでおり、目標達成が可能。		繁殖母牛については毎年100頭程度の増加を見込んでおり概ね計画通りである。肥育牛については大規模肥育農家の繁殖への経営転換があったため、H30については減少しているが、他の経営体で500頭規模の増加が見込まれる為、目標値は達成する見込み。		
自給飼料作付け 面積の増加	WCS90ha 飼料作物100ha 飼料用米60ha	WCS110ha 飼料作物120ha 飼料用米60ha	WCS110ha 飼料作物120ha 飼料用米80ha	WCS及び飼料作物に関しては目標を達成している。飼料用米については、H31以降に飼料用米サイレージ(SGS)の原材料として作付面積の拡大を予定している。		機械導入事業と連動して、自給飼料作付面積の拡大が順調に進んでいる。飼料用米については計画の重点課題である飼料サイレージ(SGS)の取組拡大に必要な需要と供給のマッチング及び製造及び販売経路の確保が課題である。		
認定農業者の育成	49名	50名	52名	取組は順調に進んでおり、目標達成が可能。		H30に1件の新規就農者を確保することができた。今後も新規就農及び企業参入に対しての情報収集を行い新規就農者に対しての情報提供が行える体制を整えたい。		

大分県農協肥育委託事業プロジェクト協議会

現状

- ・大分県は繁殖生産県であり、県内子牛市場に出荷される子牛の県内保留率は約3割程度である。
- ・このようなか、大分県農業協同組合が運営する肥育試験研究センターは、「繁殖農家の買い支え」、「肥育成績のフィードバックによる優良繁殖母牛の保留」など重要な役割を担っている。

課題

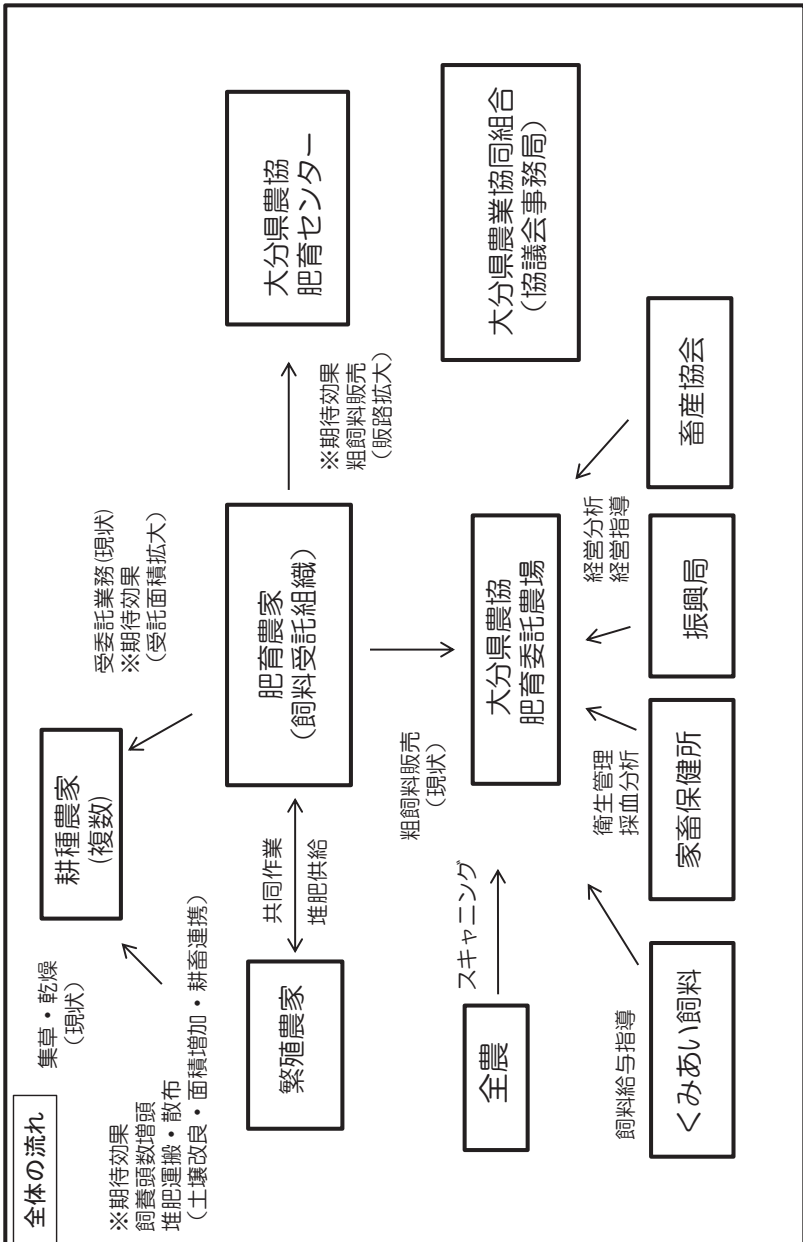
- ・大分県農業協同組肥育試験研究センターは、設置後約30年経過しており、老朽化が進んでいる。
- ・県内数ヶ所に点在しており、効率的な管理体制が必要。
- ・飼養規模も1センター当たり150頭前後の小規模であり、労働生産性の向上が必要。
- ・従業員の雇用確保が困難である。
- ・リーダー的存在になりうるセンターが必要。

対策

- ・リーダー的存在になりえる肥育農家を選定し委託農場へ移行する。
- ・委託農場へ移行することにより、新たな固定資産を取得しなくても肥育牛の頭数維持が可能。
- ・老朽化した施設の改修費用の軽減。
- ・コントラクターを兼業のよる粗飼料確保。

期待される効果

- ・委託農場のリーダー的存在により、他肥育試験研究センターの底上げ図れる。
- ・コントラクター受託面積の拡大による農地の有効利用促進。
- ・安定的な粗飼料の確保が可能。
- ・技術力のある委託農場へ移行することにより、下記の期待効果がある。
- ・枝肉重量向上に伴う販売額の増額。
- ・各種肥育試験への対応が可能。
- ・県内ブランドの貢献（おおいた和牛・おおいた豊後牛）。



協議会名：大分県農協肥育委託事業⁷ 〇⁸ 〇⁹ 〇¹⁰ 〇¹¹ 〇¹² 〇¹³ 〇¹⁴ 〇¹⁵ 〇¹⁶ 〇¹⁷ 〇¹⁸ 〇¹⁹ 〇²⁰ 〇²¹ 〇²² 〇²³ 〇²⁴ 〇²⁵ 〇²⁶ 〇²⁷ 〇²⁸ 〇²⁹ 〇³⁰ 〇³¹ 〇³² 〇³³ 〇³⁴ 〇³⁵ 〇³⁶ 〇³⁷ 〇³⁸ 〇³⁹ 〇⁴⁰ 〇⁴¹ 〇⁴² 〇⁴³ 〇⁴⁴ 〇⁴⁵ 〇⁴⁶ 〇⁴⁷ 〇⁴⁸ 〇⁴⁹ 〇⁵⁰ 〇⁵¹ 〇⁵² 〇⁵³ 〇⁵⁴ 〇⁵⁵ 〇⁵⁶ 〇⁵⁷ 〇⁵⁸ 〇⁵⁹ 〇⁶⁰ 〇⁶¹ 〇⁶² 〇⁶³ 〇⁶⁴ 〇⁶⁵ 〇⁶⁶ 〇⁶⁷ 〇⁶⁸ 〇⁶⁹ 〇⁷⁰ 〇⁷¹ 〇⁷² 〇⁷³ 〇⁷⁴ 〇⁷⁵ 〇⁷⁶ 〇⁷⁷ 〇⁷⁸ 〇⁷⁹ 〇⁸⁰ 〇⁸¹ 〇⁸² 〇⁸³ 〇⁸⁴ 〇⁸⁵ 〇⁸⁶ 〇⁸⁷ 〇⁸⁸ 〇⁸⁹ 〇⁹⁰ 〇⁹¹ 〇⁹² 〇⁹³ 〇⁹⁴ 〇⁹⁵ 〇⁹⁶ 〇⁹⁷ 〇⁹⁸ 〇⁹⁹ 〇¹⁰⁰ 〇¹⁰¹ 〇¹⁰² 〇¹⁰³ 〇¹⁰⁴ 〇¹⁰⁵ 〇¹⁰⁶ 〇¹⁰⁷ 〇¹⁰⁸ 〇¹⁰⁹ 〇¹¹⁰ 〇¹¹¹ 〇¹¹² 〇¹¹³ 〇¹¹⁴ 〇¹¹⁵ 〇¹¹⁶ 〇¹¹⁷ 〇¹¹⁸ 〇¹¹⁹ 〇¹²⁰ 〇¹²¹ 〇¹²² 〇¹²³ 〇¹²⁴ 〇¹²⁵ 〇¹²⁶ 〇¹²⁷ 〇¹²⁸ 〇¹²⁹ 〇¹³⁰ 〇¹³¹ 〇¹³² 〇¹³³ 〇¹³⁴ 〇¹³⁵ 〇¹³⁶ 〇¹³⁷ 〇¹³⁸ 〇¹³⁹ 〇¹⁴⁰ 〇¹⁴¹ 〇¹⁴² 〇¹⁴³ 〇¹⁴⁴ 〇¹⁴⁵ 〇¹⁴⁶ 〇¹⁴⁷ 〇¹⁴⁸ 〇¹⁴⁹ 〇¹⁵⁰ 〇¹⁵¹ 〇¹⁵² 〇¹⁵³ 〇¹⁵⁴ 〇¹⁵⁵ 〇¹⁵⁶ 〇¹⁵⁷ 〇¹⁵⁸ 〇¹⁵⁹ 〇¹⁶⁰ 〇¹⁶¹ 〇¹⁶² 〇¹⁶³ 〇¹⁶⁴ 〇¹⁶⁵ 〇¹⁶⁶ 〇¹⁶⁷ 〇¹⁶⁸ 〇¹⁶⁹ 〇¹⁷⁰ 〇¹⁷¹ 〇¹⁷² 〇¹⁷³ 〇¹⁷⁴ 〇¹⁷⁵ 〇¹⁷⁶ 〇¹⁷⁷ 〇¹⁷⁸ 〇¹⁷⁹ 〇¹⁸⁰ 〇¹⁸¹ 〇¹⁸² 〇¹⁸³ 〇¹⁸⁴ 〇¹⁸⁵ 〇¹⁸⁶ 〇¹⁸⁷ 〇¹⁸⁸ 〇¹⁸⁹ 〇¹⁹⁰ 〇¹⁹¹ 〇¹⁹² 〇¹⁹³ 〇¹⁹⁴ 〇¹⁹⁵ 〇¹⁹⁶ 〇¹⁹⁷ 〇¹⁹⁸ 〇¹⁹⁹ 〇²⁰⁰ 〇²⁰¹ 〇²⁰² 〇²⁰³ 〇²⁰⁴ 〇²⁰⁵ 〇²⁰⁶ 〇²⁰⁷ 〇²⁰⁸ 〇²⁰⁹ 〇²¹⁰ 〇²¹¹ 〇²¹² 〇²¹³ 〇²¹⁴ 〇²¹⁵ 〇²¹⁶ 〇²¹⁷ 〇²¹⁸ 〇²¹⁹ 〇²²⁰ 〇²²¹ 〇²²² 〇²²³ 〇²²⁴ 〇²²⁵ 〇²²⁶ 〇²²⁷ 〇²²⁸ 〇²²⁹ 〇²³⁰ 〇²³¹ 〇²³² 〇²³³ 〇²³⁴ 〇²³⁵ 〇²³⁶ 〇²³⁷ 〇²³⁸ 〇²³⁹ 〇²⁴⁰ 〇²⁴¹ 〇²⁴² 〇²⁴³ 〇²⁴⁴ 〇²⁴⁵ 〇²⁴⁶ 〇²⁴⁷ 〇²⁴⁸ 〇²⁴⁹ 〇²⁵⁰ 〇²⁵¹ 〇²⁵² 〇²⁵³ 〇²⁵⁴ 〇²⁵⁵ 〇²⁵⁶ 〇²⁵⁷ 〇²⁵⁸ 〇²⁵⁹ 〇²⁶⁰ 〇²⁶¹ 〇²⁶² 〇²⁶³ 〇²⁶⁴ 〇²⁶⁵ 〇²⁶⁶ 〇²⁶⁷ 〇²⁶⁸ 〇²⁶⁹ 〇²⁷⁰ 〇²⁷¹ 〇²⁷² 〇²⁷³ 〇²⁷⁴ 〇²⁷⁵ 〇²⁷⁶ 〇²⁷⁷ 〇²⁷⁸ 〇²⁷⁹ 〇²⁸⁰ 〇²⁸¹ 〇²⁸² 〇²⁸³ 〇²⁸⁴ 〇²⁸⁵ 〇²⁸⁶ 〇²⁸⁷ 〇²⁸⁸ 〇²⁸⁹ 〇²⁹⁰ 〇²⁹¹ 〇²⁹² 〇²⁹³ 〇²⁹⁴ 〇²⁹⁵ 〇²⁹⁶ 〇²⁹⁷ 〇²⁹⁸ 〇²⁹⁹ 〇³⁰⁰ 〇³⁰¹ 〇³⁰² 〇³⁰³ 〇³⁰⁴ 〇³⁰⁵ 〇³⁰⁶ 〇³⁰⁷ 〇³⁰⁸ 〇³⁰⁹ 〇³¹⁰ 〇³¹¹ 〇³¹² 〇³¹³ 〇³¹⁴ 〇³¹⁵ 〇³¹⁶ 〇³¹⁷ 〇³¹⁸ 〇³¹⁹ 〇³²⁰ 〇³²¹ 〇³²² 〇³²³ 〇³²⁴ 〇³²⁵ 〇³²⁶ 〇³²⁷ 〇³²⁸ 〇³²⁹ 〇³³⁰ 〇³³¹ 〇³³² 〇³³³ 〇³³⁴ 〇³³⁵ 〇³³⁶ 〇³³⁷ 〇³³⁸ 〇³³⁹ 〇³⁴⁰ 〇³⁴¹ 〇³⁴² 〇³⁴³ 〇³⁴⁴ 〇³⁴⁵ 〇³⁴⁶ 〇³⁴⁷ 〇³⁴⁸ 〇³⁴⁹ 〇³⁵⁰ 〇³⁵¹ 〇³⁵² 〇³⁵³ 〇³⁵⁴ 〇³⁵⁵ 〇³⁵⁶ 〇³⁵⁷ 〇³⁵⁸ 〇³⁵⁹ 〇³⁶⁰ 〇³⁶¹ 〇³⁶² 〇³⁶³ 〇³⁶⁴ 〇³⁶⁵ 〇³⁶⁶ 〇³⁶⁷ 〇³⁶⁸ 〇³⁶⁹ 〇³⁷⁰ 〇³⁷¹ 〇³⁷² 〇³⁷³ 〇³⁷⁴ 〇³⁷⁵ 〇³⁷⁶ 〇³⁷⁷ 〇³⁷⁸ 〇³⁷⁹ 〇³⁸⁰ 〇³⁸¹ 〇³⁸² 〇³⁸³ 〇³⁸⁴ 〇³⁸⁵ 〇³⁸⁶ 〇³⁸⁷ 〇³⁸⁸ 〇³⁸⁹ 〇³⁹⁰ 〇³⁹¹ 〇³⁹² 〇³⁹³ 〇³⁹⁴ 〇³⁹⁵ 〇³⁹⁶ 〇³⁹⁷ 〇³⁹⁸ 〇³⁹⁹ 〇⁴⁰⁰ 〇⁴⁰¹ 〇⁴⁰² 〇⁴⁰³ 〇⁴⁰⁴ 〇⁴⁰⁵ 〇⁴⁰⁶ 〇⁴⁰⁷ 〇⁴⁰⁸ 〇⁴⁰⁹ 〇⁴¹⁰ 〇⁴¹¹ 〇⁴¹² 〇⁴¹³ 〇⁴¹⁴ 〇⁴¹⁵ 〇⁴¹⁶ 〇⁴¹⁷ 〇⁴¹⁸ 〇⁴¹⁹ 〇⁴²⁰ 〇⁴²¹ 〇⁴²² 〇⁴²³ 〇⁴²⁴ 〇⁴²⁵ 〇⁴²⁶ 〇⁴²⁷ 〇⁴²⁸ 〇⁴²⁹ 〇⁴³⁰ 〇⁴³¹ 〇⁴³² 〇⁴³³ 〇⁴³⁴ 〇⁴³⁵ 〇⁴³⁶ 〇⁴³⁷ 〇⁴³⁸ 〇⁴³⁹ 〇⁴⁴⁰ 〇⁴⁴¹ 〇⁴⁴² 〇⁴⁴³ 〇⁴⁴⁴ 〇⁴⁴⁵ 〇⁴⁴⁶ 〇⁴⁴⁷ 〇⁴⁴⁸ 〇⁴⁴⁹ 〇⁴⁵⁰ 〇⁴⁵¹ 〇⁴⁵² 〇⁴⁵³ 〇⁴⁵⁴ 〇⁴⁵⁵ 〇⁴⁵⁶ 〇⁴⁵⁷ 〇⁴⁵⁸ 〇⁴⁵⁹ 〇⁴⁶⁰ 〇⁴⁶¹ 〇⁴⁶² 〇⁴⁶³ 〇⁴⁶⁴ 〇⁴⁶⁵ 〇⁴⁶⁶ 〇⁴⁶⁷ 〇⁴⁶⁸ 〇⁴⁶⁹ 〇⁴⁷⁰ 〇⁴⁷¹ 〇⁴⁷² 〇⁴⁷³ 〇⁴⁷⁴ 〇⁴⁷⁵ 〇⁴⁷⁶ 〇⁴⁷⁷ 〇⁴⁷⁸ 〇⁴⁷⁹ 〇⁴⁸⁰ 〇⁴⁸¹ 〇⁴⁸² 〇⁴⁸³ 〇⁴⁸⁴ 〇⁴⁸⁵ 〇⁴⁸⁶ 〇⁴⁸⁷ 〇⁴⁸⁸ 〇⁴⁸⁹ 〇⁴⁹⁰ 〇⁴⁹¹ 〇⁴⁹² 〇⁴⁹³ 〇⁴⁹⁴ 〇⁴⁹⁵ 〇⁴⁹⁶ 〇⁴⁹⁷ 〇⁴⁹⁸ 〇⁴⁹⁹ 〇⁵⁰⁰ 〇⁵⁰¹ 〇⁵⁰² 〇⁵⁰³ 〇⁵⁰⁴ 〇⁵⁰⁵ 〇⁵⁰⁶ 〇⁵⁰⁷ 〇⁵⁰⁸ 〇⁵⁰⁹ 〇⁵¹⁰ 〇⁵¹¹ 〇⁵¹² 〇⁵¹³ 〇⁵¹⁴ 〇⁵¹⁵ 〇⁵¹⁶ 〇⁵¹⁷ 〇⁵¹⁸ 〇⁵¹⁹ 〇⁵²⁰ 〇⁵²¹ 〇⁵²² 〇⁵²³ 〇⁵²⁴ 〇⁵²⁵ 〇⁵²⁶ 〇⁵²⁷ 〇⁵²⁸ 〇⁵²⁹ 〇⁵³⁰ 〇⁵³¹ 〇⁵³² 〇⁵³³ 〇⁵³⁴ 〇⁵³⁵ 〇⁵³⁶ 〇⁵³⁷ 〇⁵³⁸ 〇⁵³⁹ 〇⁵⁴⁰ 〇⁵⁴¹ 〇⁵⁴² 〇⁵⁴³ 〇⁵⁴⁴ 〇⁵⁴⁵ 〇⁵⁴⁶ 〇⁵⁴⁷ 〇⁵⁴⁸ 〇⁵⁴⁹ 〇⁵⁵⁰ 〇⁵⁵¹ 〇⁵⁵² 〇⁵⁵³ 〇⁵⁵⁴ 〇⁵⁵⁵ 〇⁵⁵⁶ 〇⁵⁵⁷ 〇⁵⁵⁸ 〇⁵⁵⁹ 〇⁵⁶⁰ 〇⁵⁶¹ 〇⁵⁶² 〇⁵⁶³ 〇⁵⁶⁴ 〇⁵⁶⁵ 〇⁵⁶⁶ 〇⁵⁶⁷ 〇⁵⁶⁸ 〇⁵⁶⁹ 〇⁵⁷⁰ 〇⁵⁷¹ 〇⁵⁷² 〇⁵⁷³ 〇⁵⁷⁴ 〇⁵⁷⁵ 〇⁵⁷⁶ 〇⁵⁷⁷ 〇⁵⁷⁸ 〇⁵⁷⁹ 〇⁵⁸⁰ 〇⁵⁸¹ 〇⁵⁸² 〇⁵⁸³ 〇⁵⁸⁴ 〇⁵⁸⁵ 〇⁵⁸⁶ 〇⁵⁸⁷ 〇⁵⁸⁸ 〇⁵⁸⁹ 〇⁵⁹⁰ 〇⁵⁹¹ 〇⁵⁹² 〇⁵⁹³ 〇⁵⁹⁴ 〇⁵⁹⁵ 〇⁵⁹⁶ 〇⁵⁹⁷ 〇⁵⁹⁸ 〇⁵⁹⁹ 〇⁶⁰⁰ 〇⁶⁰¹ 〇⁶⁰² 〇⁶⁰³ 〇⁶⁰⁴ 〇⁶⁰⁵ 〇⁶⁰⁶ 〇⁶⁰⁷ 〇⁶⁰⁸ 〇⁶⁰⁹ 〇⁶¹⁰ 〇⁶¹¹ 〇⁶¹² 〇⁶¹³ 〇⁶¹⁴ 〇⁶¹⁵ 〇⁶¹⁶ 〇⁶¹⁷ 〇⁶¹⁸ 〇⁶¹⁹ 〇⁶²⁰ 〇⁶²¹ 〇⁶²² 〇⁶²³ 〇⁶²⁴ 〇⁶²⁵ 〇⁶²⁶ 〇⁶²⁷ 〇⁶²⁸ 〇⁶²⁹ 〇⁶³⁰ 〇⁶³¹ 〇⁶³² 〇⁶³³ 〇⁶³⁴ 〇⁶³⁵ 〇⁶³⁶ 〇⁶³⁷ 〇⁶³⁸ 〇⁶³⁹ 〇⁶⁴⁰ 〇⁶⁴¹ 〇⁶⁴² 〇⁶⁴³ 〇⁶⁴⁴ 〇⁶⁴⁵ 〇⁶⁴⁶ 〇⁶⁴⁷ 〇⁶⁴⁸ 〇⁶⁴⁹ 〇⁶⁵⁰ 〇⁶⁵¹ 〇⁶⁵² 〇⁶⁵³ 〇⁶⁵⁴ 〇⁶⁵⁵ 〇⁶⁵⁶ 〇⁶⁵⁷ 〇⁶⁵⁸ 〇⁶⁵⁹ 〇⁶⁶⁰ 〇⁶⁶¹ 〇⁶⁶² 〇⁶⁶³ 〇⁶⁶⁴ 〇⁶⁶⁵ 〇⁶⁶⁶ 〇⁶⁶⁷ 〇⁶⁶⁸ 〇⁶⁶⁹ 〇⁶⁷⁰ 〇⁶⁷¹ 〇⁶⁷² 〇⁶⁷³ 〇⁶⁷⁴ 〇⁶⁷⁵ 〇⁶⁷⁶ 〇⁶⁷⁷ 〇⁶⁷⁸ 〇⁶⁷⁹ 〇⁶⁸⁰ 〇⁶⁸¹ 〇⁶⁸² 〇⁶⁸³ 〇⁶⁸⁴ 〇⁶⁸⁵ 〇⁶⁸⁶ 〇⁶⁸⁷ 〇⁶⁸⁸ 〇⁶⁸⁹ 〇⁶⁹⁰ 〇⁶⁹¹ 〇⁶⁹² 〇⁶⁹³ 〇⁶⁹⁴ 〇⁶⁹⁵ 〇⁶⁹⁶ 〇⁶⁹⁷ 〇⁶⁹⁸ 〇⁶⁹⁹ 〇⁷⁰⁰ 〇⁷⁰¹ 〇⁷⁰² 〇⁷⁰³ 〇⁷⁰⁴ 〇⁷⁰⁵ 〇⁷⁰⁶ 〇⁷⁰⁷ 〇⁷⁰⁸ 〇⁷⁰⁹ 〇⁷¹⁰ 〇⁷¹¹ 〇⁷¹² 〇⁷¹³ 〇⁷¹⁴ 〇⁷¹⁵ 〇⁷¹⁶ 〇⁷¹⁷ 〇⁷¹⁸ 〇⁷¹⁹ 〇⁷²⁰ 〇⁷²¹ 〇⁷²² 〇⁷²³ 〇⁷²⁴ 〇⁷²⁵ 〇⁷²⁶ 〇⁷²⁷ 〇⁷²⁸ 〇⁷²⁹ 〇⁷³⁰ 〇⁷³¹ 〇⁷³² 〇⁷³³ 〇⁷³⁴ 〇⁷³⁵ 〇⁷³⁶ 〇⁷³⁷ 〇⁷³⁸ 〇⁷³⁹ 〇⁷⁴⁰ 〇⁷⁴¹ 〇⁷⁴² 〇⁷⁴³ 〇⁷⁴⁴ 〇⁷⁴⁵ 〇⁷⁴⁶ 〇⁷⁴⁷ 〇⁷⁴⁸ 〇⁷⁴⁹ 〇⁷⁵⁰ 〇⁷⁵¹ 〇⁷⁵² 〇⁷⁵³ 〇⁷⁵⁴ 〇⁷⁵⁵ 〇⁷⁵⁶ 〇⁷⁵⁷ 〇⁷⁵⁸ 〇⁷⁵⁹ 〇⁷⁶⁰ 〇⁷⁶¹ 〇⁷⁶² 〇⁷⁶³ 〇⁷⁶⁴ 〇⁷⁶⁵ 〇⁷⁶⁶ 〇⁷⁶⁷ 〇⁷⁶⁸ 〇⁷⁶⁹ 〇⁷⁷⁰ 〇⁷⁷¹ 〇⁷⁷² 〇⁷⁷³ 〇⁷⁷⁴ 〇⁷⁷⁵ 〇⁷⁷⁶ 〇⁷⁷⁷ 〇⁷⁷⁸ 〇⁷⁷⁹ 〇⁷⁸⁰ 〇⁷⁸¹ 〇⁷⁸² 〇⁷⁸³ 〇⁷⁸⁴ 〇⁷⁸⁵ 〇⁷⁸⁶ 〇⁷⁸⁷ 〇⁷⁸⁸ 〇⁷⁸⁹ 〇⁷⁹⁰ 〇⁷⁹¹ 〇⁷⁹² 〇⁷⁹³ 〇⁷⁹⁴ 〇⁷⁹⁵ 〇⁷⁹⁶ 〇⁷⁹⁷ 〇⁷⁹⁸ 〇⁷⁹⁹ 〇⁸⁰⁰ 〇⁸⁰¹ 〇⁸⁰² 〇⁸⁰³ 〇⁸⁰⁴ 〇⁸⁰⁵ 〇⁸⁰⁶ 〇⁸⁰⁷ 〇⁸⁰⁸ 〇⁸⁰⁹ 〇⁸¹⁰ 〇⁸¹¹ 〇⁸¹² 〇⁸¹³ 〇⁸¹⁴ 〇⁸¹⁵ 〇⁸¹⁶ 〇⁸¹⁷ 〇⁸¹⁸ 〇⁸¹⁹ 〇⁸²⁰ 〇⁸²¹ 〇⁸²² 〇⁸²³ 〇⁸²⁴ 〇⁸²⁵ 〇⁸²⁶ 〇⁸²⁷ 〇⁸²⁸ 〇⁸²⁹ 〇⁸³⁰ 〇⁸³¹ 〇⁸³² 〇⁸³³ 〇⁸³⁴ 〇⁸³⁵ 〇⁸³⁶ 〇⁸³⁷ 〇⁸³⁸ 〇⁸³⁹ 〇⁸⁴⁰ 〇⁸⁴¹ 〇⁸⁴² 〇⁸⁴³ 〇⁸⁴⁴ 〇⁸⁴⁵ 〇⁸⁴⁶ 〇⁸⁴⁷ 〇⁸⁴⁸ 〇⁸⁴⁹ 〇⁸⁵⁰ 〇⁸⁵¹ 〇⁸⁵² 〇⁸⁵³ 〇⁸⁵⁴ 〇⁸⁵⁵ 〇⁸⁵⁶ 〇⁸⁵⁷ 〇⁸⁵⁸ 〇⁸⁵⁹ 〇⁸⁶⁰ 〇⁸⁶¹ 〇⁸⁶² 〇⁸⁶³ 〇⁸⁶⁴ 〇⁸⁶⁵ 〇⁸⁶⁶ 〇⁸⁶⁷ 〇⁸⁶⁸ 〇⁸⁶⁹ 〇⁸⁷⁰ 〇⁸⁷¹ 〇⁸⁷² 〇⁸⁷³ 〇⁸⁷⁴ 〇⁸⁷⁵ 〇⁸⁷⁶ 〇⁸⁷⁷ 〇⁸⁷⁸ 〇⁸⁷⁹ 〇⁸⁸⁰ 〇⁸⁸¹ 〇⁸⁸² 〇⁸⁸³ 〇⁸⁸⁴ 〇⁸⁸⁵ 〇⁸⁸⁶ 〇⁸⁸⁷ 〇⁸⁸⁸ 〇⁸⁸⁹ 〇⁸⁹⁰ 〇⁸⁹¹ 〇⁸⁹² 〇⁸⁹³ 〇⁸⁹⁴ 〇⁸⁹⁵ 〇⁸⁹⁶ 〇⁸⁹⁷ 〇⁸⁹⁸ 〇⁸⁹⁹ 〇⁹⁰⁰ 〇⁹⁰¹ 〇⁹⁰² 〇⁹⁰³ 〇⁹⁰⁴ 〇⁹⁰⁵ 〇⁹⁰⁶ 〇⁹⁰⁷ 〇⁹⁰⁸ 〇⁹⁰⁹ 〇⁹¹⁰ 〇⁹¹¹ 〇⁹¹² 〇⁹¹³ 〇⁹¹⁴ 〇⁹¹⁵ 〇⁹¹⁶ 〇⁹¹⁷ 〇⁹¹⁸ 〇⁹¹⁹ 〇⁹²⁰ 〇⁹²¹ 〇⁹²² 〇⁹²³ 〇⁹²⁴ 〇⁹²⁵ 〇⁹²⁶ 〇⁹²⁷ 〇⁹²⁸ 〇⁹²⁹ 〇⁹³⁰ 〇⁹³¹ 〇⁹³² 〇⁹³³ 〇⁹³⁴ 〇⁹³⁵ 〇⁹³⁶ 〇⁹³⁷ 〇⁹³⁸ 〇⁹³⁹ 〇⁹⁴⁰ 〇⁹⁴¹ 〇⁹⁴² 〇⁹⁴³ 〇⁹⁴⁴ 〇⁹⁴⁵ 〇⁹⁴⁶ 〇⁹⁴⁷ 〇⁹⁴⁸ 〇⁹⁴⁹ 〇⁹⁵⁰ 〇⁹⁵¹ 〇⁹⁵² 〇⁹⁵³ 〇⁹⁵⁴ 〇⁹⁵⁵ 〇⁹⁵⁶ 〇⁹⁵⁷ 〇⁹⁵⁸ 〇⁹⁵⁹ 〇⁹⁶⁰ 〇⁹⁶¹ 〇⁹⁶² 〇⁹⁶³ 〇⁹⁶⁴ 〇⁹⁶⁵ 〇⁹⁶⁶ 〇⁹⁶⁷ 〇⁹⁶⁸ 〇⁹⁶⁹ 〇⁹⁷⁰ 〇⁹⁷¹ 〇⁹⁷² 〇⁹⁷³ 〇⁹⁷⁴ 〇⁹⁷⁵ 〇⁹⁷⁶ 〇⁹⁷⁷ 〇⁹⁷⁸ 〇⁹⁷⁹ 〇⁹⁸⁰ 〇⁹⁸¹ 〇⁹⁸² 〇⁹⁸³ 〇⁹⁸⁴ 〇⁹⁸⁵ 〇⁹⁸⁶ 〇⁹⁸⁷ 〇⁹⁸⁸ 〇⁹⁸⁹ 〇⁹⁹⁰ 〇⁹⁹¹ 〇⁹⁹² 〇⁹⁹³ 〇⁹⁹⁴ 〇⁹⁹⁵ 〇⁹⁹⁶ 〇⁹⁹⁷ 〇⁹⁹⁸ 〇⁹⁹⁹ 〇¹⁰⁰⁰

平成30年度畜産クラスター情報交換会に係る事前レポート①

畜産クラスター情報交換会で使用する資料としますので、事前にご記入のうえ、平成31年2月8日（金）までにメールもしくはFAXにてご提出ください。記入方法については、作文形式でも、箇条書き形式でも構いませんが、当日の資料として印刷配布しますので、なるべく具体的に列挙してください。

====以下、事前課題レポート====

- 1 以下の選択肢より協議会として取り組んでいる内容すべてに〇印をつけ、最も重点的に取り組んでいる内容について具体的に書いてください。

《選択肢》

- ①新規就農の確保 ②担い手の育成 ③労働負担の軽減 ④飼養規模の拡大、飼養管理の改善 ⑤自給飼料利用の拡大 ⑥畜産環境問題への対応

《最も重点的に取り組んでいる内容》 番号：⑤

平成30年度畜産クラスター情報交換会に係る事前レポート②

畜産クラスター情報交換会で使用する資料としますので、下記設問を【記入例】を参考にご記入の上、平成31年2月8日（金）までに、メールもしくはFAXにてご提出ください。当日の資料として印刷配布し情報共有します。
記入方法については、「飼養頭数」「飼料用米栽培面積」等、重点的に取組んでいる内容を3つ選び、具体的に記載してください。

取組内容 (目標項目)	起点となる値		現状値		目標値		自己評価	要因分析・課題
	H27年度	H29年度	H29年度	H32年度				
飼料受託面積の増加	200ha	240ha	270ha			計画どおりであり、目標達成が近づいている。	高齢化に伴い、受託面積が拡大している。	
枝肉重量の増加	481.7kg	471.9kg	5kg 増			素牛価格の高騰により導入する素牛ランクが下がった為、枝重量を確保できなかつた。 雌肥育牛は、450 kgから455 kgへ枝重量の増加が図れている。 引き続き、プロジェクト協議会で検討を実施していきます。	素牛価格の見直し 去勢、雌牛の給与体系見直し	
肥育センターでの購入量	320t	627 t	700t			過去、肥育センター1ヶ所取引だったが、現在3ヶ所で購入できている。		

琉球採卵鶏生産振興協議会

防疫衛生対策及び快適な飼育環境の創出による生産性の向上、作業の機械化・高度化による労働環境の改善、家畜排せつ物処理の環境整備及び耕畜連携、規模拡大による出荷羽数の確保に
取り組み、収益性の向上を図る。

農場バイオセキュリティ及び快適な飼育環境の整備による生産性の向上

規模拡大による常時飼養羽数及び生産物の定量確保

作業の機械化・高度化、省エネシステム等の整備による生産コストの低減

家畜排せつ物処理の促進及び環境負荷の低減、耕畜連携



沖縄県畜産振興公社
(助言、指導)

琉球沖縄県飼料荷受組合
(中心的な経営体との連携、助言、指導)

採卵鶏農家 (実証参加・
取りまとめ)

琉球飼料 (事務局)

琉球農畜産物生産組合
(技術指導、衛生指導、
営農支援)

【実証内容】

- 最適な飼育環境を創出することで、産卵率、卵重、格外卵の向上が期待できる。
- 作業全体の効率化とともに労働力の省力化が図られ、労働時間の短縮、重労働の改善、作業内容の見直し等、生産コストの削減につながる
- 適正な家畜排せつ物の処理、堆肥の生産、販売による耕畜連携の強化

【効果】

- 【衛生対策、飼育環境の整備による生産性向上】
生産性の向上 1,864千円の収益向上
- 【品質管理、省エネシステムによるコストの低減】
労働時間の短縮 5,120千円のコスト削減
- 【家畜排せつ物処理の促進、耕畜連携】
堆肥生産及び販売 574千円の収益向上

地域全体で約 755
百万円の収益性の
向上

協議会名：琉球採卵鶏生産振興協議会

平成30年度畜産クラスター情報交換会に係る事前レポート①

畜産クラスター情報交換会で使用する資料としますので、事前にご記入のうえ、平成31年2月8日（金）までにメールもしくはFAXにてご提出ください。記入方法については、作文形式でも、箇条書き形式でも構いませんが、当日の資料として印刷配布しますので、なるべく具体的に列挙してください。

=====以下、事前課題レポート=====

- 1 以下の選択肢より協議会として取り組んでいる内容すべてに○印をつけ、最も重点的に取り組んでいる内容について具体的に書いてください。

《選択肢》

- ①新規就農の確保 ②担い手の育成 ③労働負担の軽減 ④飼養規模の拡大、飼養管理の改善 ⑤自給飼料利用の拡大 ⑥畜産環境問題への対応

《最も重点的に取り組んでいる内容》 番号： ⑥

- 2 あなたが所属している畜産クラスター協議会の目標について書いてください。
養鶏経営を行う上で、環境問題対策が急務であることから、環境問題対策を最優先に取り組んでいる。

- 3 目標達成に向け、最も重点的に取り組んでいる内容を書いてください。
ただ堆肥を作るだけでなく、安定的に耕種農家等に使用してもらえる堆肥を生産していくことに取り組んでいる。

- 4 目標達成度（実態・成果）を把握するための仕組み・体制を書いてください。
導入した機械別にチェックシートを用意し、常に稼働・生産量を把握できるようにし、毎月、数字の確認・検証をできるようにしている。

- 5 現在の目標達成度（成果）及び目標達成に向けて解決すべき課題を書いてください。
機械導入をする中心的な経営体の堆肥舎建設が遅れており、目標達成が難しくなってきた。

平成30年度畜産クラスター情報交換会に係る事前レポート②

畜産クラスター情報交換会で使用する資料としますので、下記設問を【記入例】を参考にご記入の上、平成31年2月8日（金）までに、メールもしくはFAXにてご提出ください。当日の資料として印刷配布し情報共有します。
記入方法については、「飼養頭数」「飼料用米栽培面積」等、重点的に取組んでいる内容を3つ選び、具体的に記載してください。

取組内容 (目標項目)	起点となる値		現状値		目標値		自己評価	要因分析・課題
	H 28 年度	H 30 年 2月	H 30 年 2月	H33 年 度				
堆肥生産・販売の拡大	0トン	0トン	0トン	800トン	目標達成が難しくなっていて、目標設定の見直しが必要。		自己資金で堆肥舎を建設しているが、完成までに約半年程遅れてしまい、稼働まで時間がかかってしまった為。今後は、順調に稼働予定の為生産量を確保できると考えている。	
堆肥引取料の削減	9,000,000円	7,500,000円	0円	0円	取引業者に今後は自分たちで堆肥生産をするむねを伝えたいところ、引き取り単価が下がり、堆肥舎ができたあとも少量でもいいので鶏糞を引き取りたいとの要望があった。		堆肥舎が完成し、順調に稼働すること、H33年度には堆肥引取り料を完全に0にできると考えている。	

平成31年3月25日 発行

企画・編集 公益社団法人 中央畜産会

〒101-0021 東京都千代田区外神田 2-16-2
第2 ディーアイシービル 9階

経営支援部（支援・調査）

TEL : 03-6206-0843（直通）

FAX : 03-5289-0890

E-mail:cc@sec.lin.gr.jp

